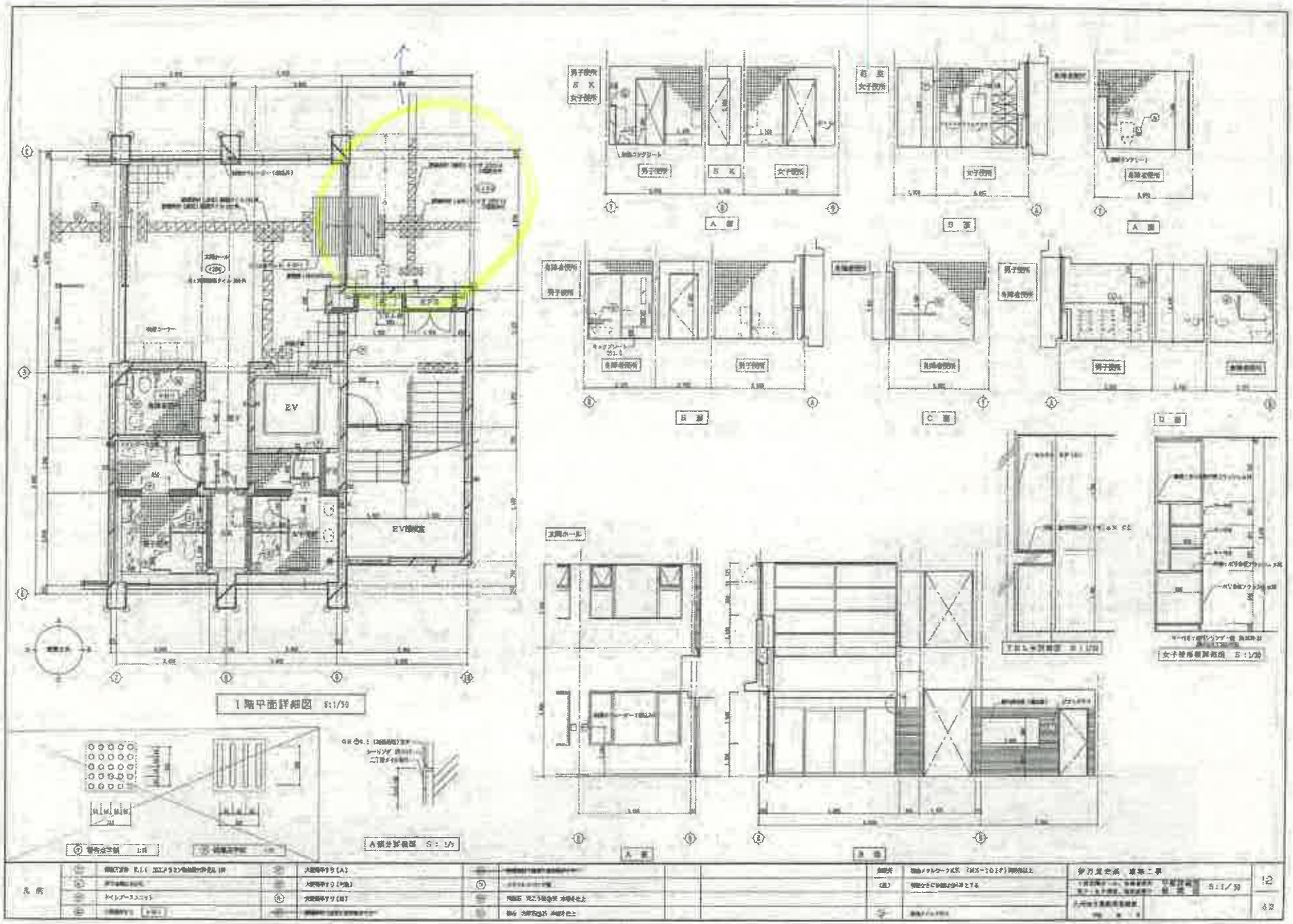
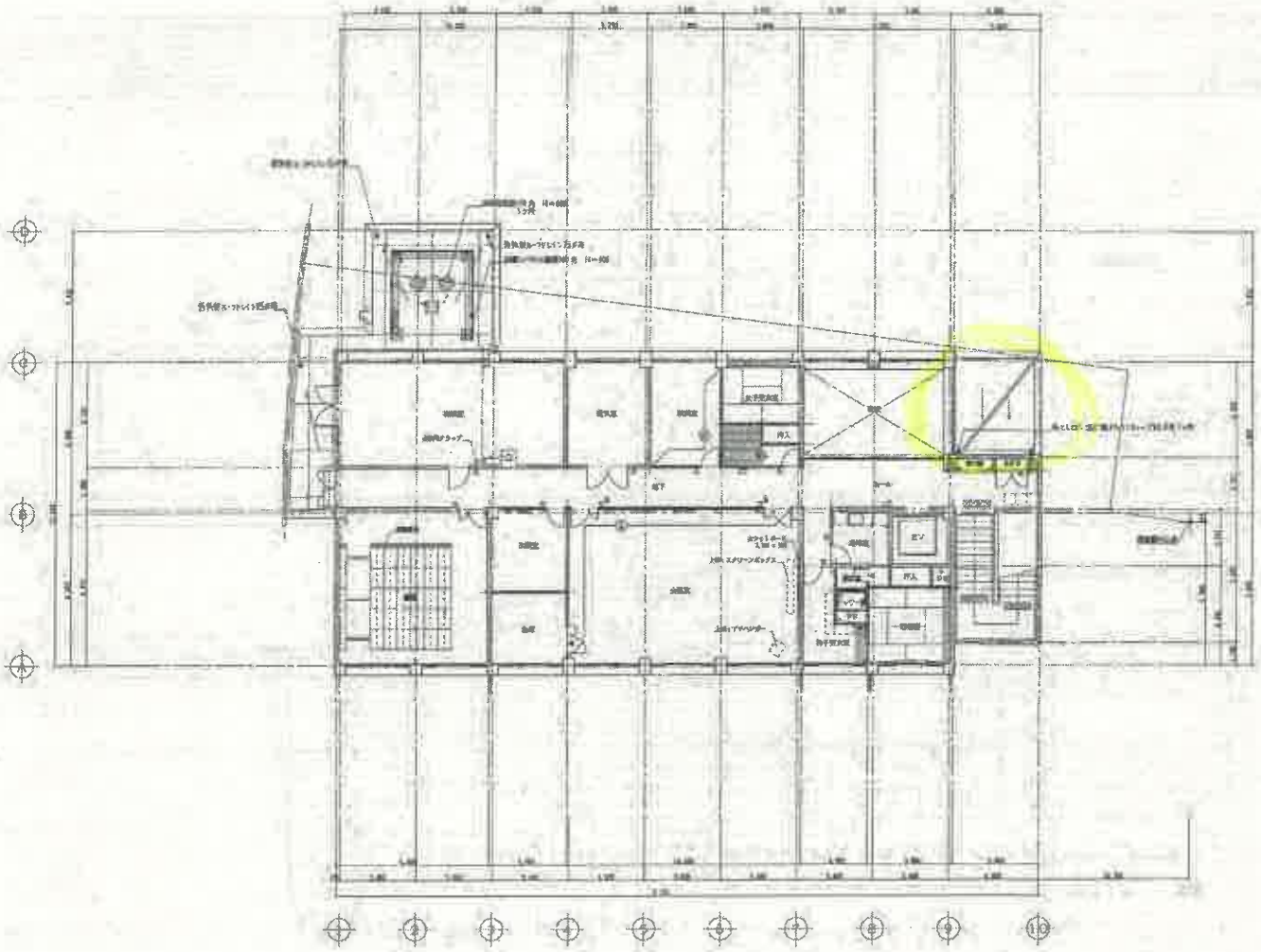

1階平面詳細図 S:1/50
EV
EV機械室
A部
B部
C部
D部
女子便所
男子便所
身障者便所
A部分詳細図 S:1/5
S:1/50

H10HA07－196

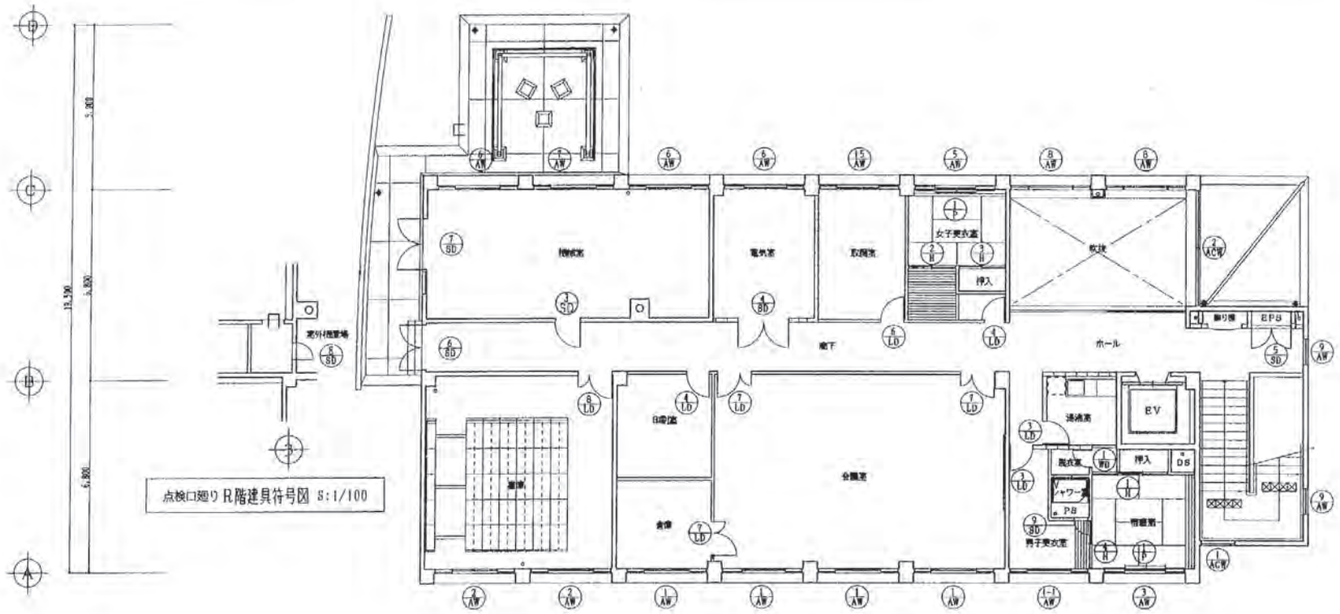


2階平面図　S:1/100

凡例	地盤コンクリート法面		コルゲーター		基礎梁		ハロン配管			多万至芦苅　地蔵工事	7
	コンクリートブロック設置（ひび割防止）		OAフロアー用コンクリートボーダー（鉄筋）		電気配管（シート防火処理　H=100）		電気配管			2階平面図　S:1/100	
	電気配管下地		電気配管（鉄筋）		ピクトグラフ（平付）		ルーフドレン（平面）			八尾市立埋蔵文化財センター	4コ
	電気配管下法面（鉄筋）		電気配管（鉄筋）		ピクトグラフ（壁付）		壁面			平成　年　月	

H10HA07－191

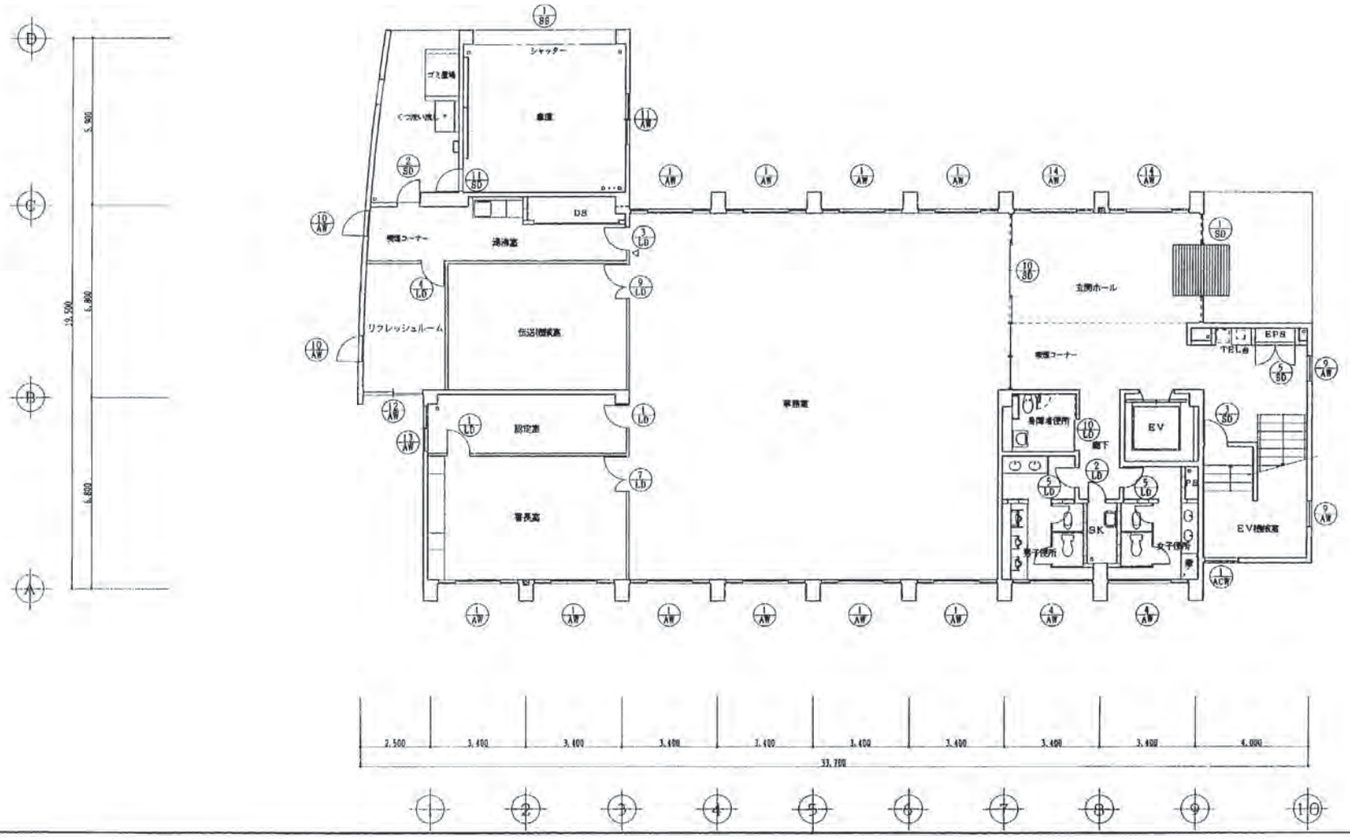
2011/03/29
12:18:51
JST



点検口廻り R階建具符号図 S:1/100

屋外機スペース R階建具符号図 S:1/100

2階建具符号図 S:1/100



1階建具符号図 S:1/100

伊万里労基 建築工事 (第1回変更)		7
建具符号図	S:1/100	12
九州地方建設局営繕部 平成 年 月		

H10HA07－233

2011/03/29
12:18:54
JST

建具記号	形状（ ）内はらんまを示す 記号	建具分類	取付種別	箇所数 階 1	2	R				計	建具寸法（ ）内はらんまを示す W	種別幅	H	建具見込み	建具枠 枠見込み	枠回り記号 枠→くつずり 水切→ぜん板 額縁	ガラス（ ）内らんまを示す 種別	厚さ	がらり W	H	記号	仕上げ	建具金物	備考
SD	図示	袖付引分け自動扉	O	1						1	3,690		2,400	31	120	—	T	8				UE	CL	
SD	C-1	片開きフラッシュ戸	O	1						1	900		2,100	40	120	S4—5	P	5				FE	DC, BL	
SD	A-1	〃	O	1	1					2	900		2,100	40	120	S4—6						OP	DC, HL	
SD	A-3	両開きフラッシュ戸	O		1					1	2,000		2,375	40	120	S2—2						OP	DC, HL	
SD	A-3	〃	O	1	1					2	1,300		2,100	40	100	S1—2						OP	CH（被付）	
SD	C-3	〃	O		1					1	1,650		2,375	40	120	S4—5	P	5				FE	DC, BL	
SD	図示	〃	O		1					1	2,900		2,375	40	120	S4—5			800	2,375	ロ-1	FE	DC, BL	
SD	A-1	片開きフラッシュ戸	O			2				2	600		600	40	100	S4—S4						FE	BL	
SD	A-1	〃	O		1					1	500		1,200	40	80	S1—S1						OP	CH（被付）	
SD	図示	袖付引分け自動扉	O	1						1	6,000		2,400	31	120		図示					UE	CL	
SD	C-1	片開きフラッシュ戸	O	1						1	900		2,000	40	120	S4—5	N	6.8				FE	DC, BL	
LD	A-1	片開きフラッシュ戸	O	2						2	900		2,100	36	135	L4—2						OP	DC, HL	
LD	A-1	〃	O	1						1	600		2,075	36	115	L1—2						OP	HL（空錠）	アンダーカット＝50
LD	図示	〃	O	1	2					3	900		2,100	36	135	L2—2	N	6.8	200	850	ロ-1	OP	DC（ヒューズ付）, HL（ヒューズ付回転がラリ）	男子更衣室は 電気錠
LD	図示	〃	O	1	2					3	900		2,100	36	135	L2—2	F	4	200	850	イ-1	OP	DC, HL	女子更衣室は 電気錠
LD	図示	〃	O	2						2	850		2,075	36	115	L1—2	F	4	200	850	イ-1	OP	DC, HL（空錠）	
LD	〃	〃	O		1					1	900		2,100	36	135	L4—2	F	4				OP	DC, HL	
LD	A-2	親子開きフラッシュ戸	O	1	3					4	1,200	900	2,100	36	135	L4—2						OP	DC, HL	
LD	B-2	〃	O		1					1	1,200	900	2,100	36	115	L1—2			680	500	ロ-1	OP	DC, HL（ヒューズ付回転がラリ）（ヒューズ付）	
LD	図示	〃	O	1						1	1,200	900	2,100	36	135	L4—2	F	4				OP	DC, HL	
LD	図示	片開きフラッシュ戸	O	1						1	960		2,075	40	200	—2	F	4	200	850	イ-1	OP	図示	
WD	図示	片開きフラッシュ戸	O		1					1	600		1,850	36	135	L2—	F	4	380	300	イ-1	OP	DC, HL	表示錠
SS	図示	電動開閉シャッター	R	1						1	4,950		2,350									FE		
[illegible]	図示	引違い障子	O		2					2	2,800		1,615	24			S	1.0						
[illegible]	〃	引違い戸ふすま	O		1					1	2,670		1,850	20								和鳥の子（片面） 雲花紙（押入用）		出入口側は、両面鳥の子貼り
[illegible]	〃	〃	O		1					1	1,680		1,850	20								和鳥の子（両面）		
[illegible]	〃	〃	O		1					1	1,635		1,850	20								和鳥の子（片面）		押入側は、雲花紙貼り
[illegible]	〃	〃	O		1					1	1,400		1,850	20								和鳥の子（両面）		

形状一覧表

（ ）内は標準詳細の分類番号を示す

分類	形状及び記号		
フラッシュ戸	A-1(4-01-1)	A-2(4-01-2)	A-3(4-01-3)
がらり付きフラッシュ戸	B-1(4-01-4)	B-2(4-01-5)	B-3(4-01-6)
ガラス入りフラッシュ戸	C-1(4-01-7)	C-2(4-01-8)	C-3(4-01-9)
ガラス入りがらり付きフラッシュ戸	D-1(4-01-10)	D-2(4-01-11)	D-3(4-01-12)
ふすま	E-1(4-01-30)	E-2(4-01-31)	E-3(4-01-32)

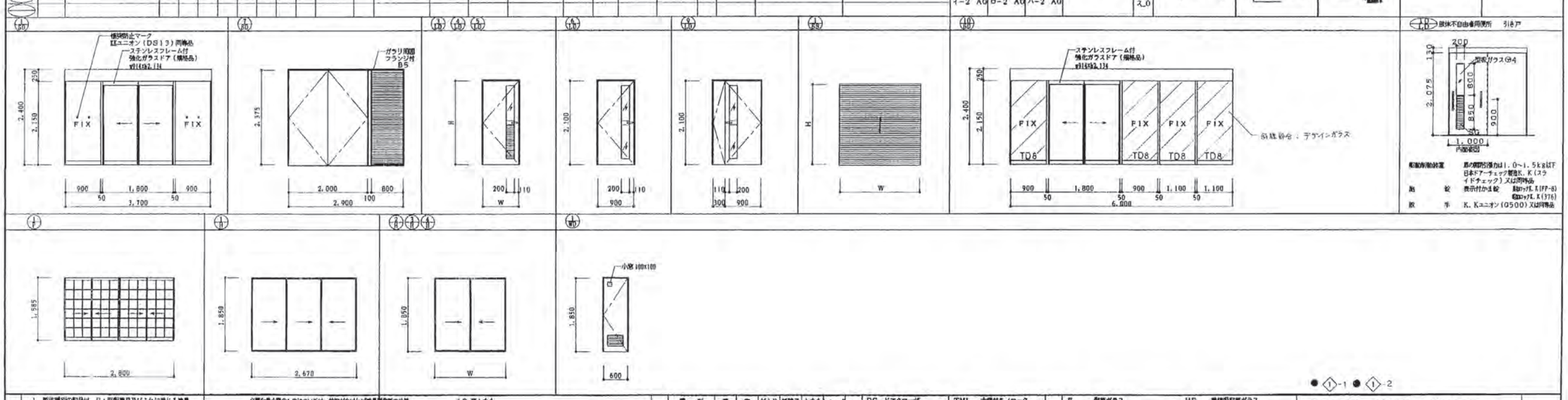
がらり形状

イ	ロ	ハ	表図
開口率 30～40% イ-1 SG イ-2 AG	開口率 30～40% ロ-1 SG ロ-2 AG	開口率 40～60% ハ-1 SG ハ-2 AG	W＝1,500以上は方立を設ける。

建具枠回り詳細

（ ）内は標準詳細の分類番号を示す

種別	詳細及び記号						
アルミニウム製建具枠	水切			ぜん板及び額縁			
	アルミニウム製	タイル張	防水モルタル張	アルミニウム製	木製	鋼製	ステンレス製
	A1(4-51-1)	A2(4-51-2)	A3(4-51-3)	B1(4-51-4) B2(4-52-1) B3(4-52-6)	B4(4-52-2)	B5(4-52-7)	B6
鋼板製建具枠	B1 (4-22-1) (4-25-1)	B2(4-22-2)	B3 (4-22-3) (4-25-2)	(4-43-1) B4 (4-44-1) (4-45-1)		防火戸 B5(4-46-1) 90度開き B6(4-47-1) 180度開き	
鋼製軽量建具枠	L1 (4-21-4) (4-22-4)	L2(4-24-3)	L3(4-26-1)	L4(4-45-2)			
木製建具枠	W1 (4-11-1) (4-13-1)	W2 (4-11-2) (4-13-2)	W3 (4-11-3) (4-12-1, 2)				
くつずりなど	-1(4-31-4)	-2(4-31-1)	-3(4-31-2)	-4(4-41-1, 2) (4-42-1, 2)		-5(4-43-1, 2) (4-44-1, 2)	
特記以外はSUS304②2・ステンレス0	-6(4-45-1, 2)	-7(4-32-1)	-8(4-32-1)				



共通事項

1 取付種別の記号は R：防煙建具及びこれに準じる建具、O：R以外の建具
2 建具枠の枠回り記号は建具枠回り詳細の記号による。
3 両開きフラッシュ戸の召合わせ部分は定規線（合じゃくりを含む）とする。
4 外部の枠及び取手付き戸には、シリンダー本締り錠を付ける。
5 特記以外の建具金物は「建築工事共通仕様書」の表16. 8. 1～表16. 8. 8による。ただし、既製またはこれに準じる建具用金物のうち機能上必要な最小限のものについては、特記がなければ建具製作所の仕様による。
6 防火戸の指定は特記する事。（16. 1. 3）（16. 3. 3）（16. 10. 2）
7 煙感知連動装置付き戸及び防火戸のDC, HC, PHは特記以外ストップなしとする。
8 建具で鋼線（アルミニウム製）、カーテンボックス受け板（アルミニウム製し型金物）等を取付ける場合は、特記する事。
9 アルミニウム製の水切り板、ぜん板及び額縁は押出形材とする。
10 戸ふすま
特記仕様
・見 込：20程度
・パネル：ラワン合板（タイプ Ⅱ）T2. 5フラッシュ
・上張り：「共杜」による。ただし、パネルの上にべた張り
・周囲縁：「共杜」による。ただし、化粧くぎ打ち
・特記以外は販売所の仕様による。

建具略号表

種別	戸	窓	がらり	網戸	ふすま	シャッター
アルミニウム製	AD	AW	AG			AS
鋼製	SD	SW	SG			SS
鋼製軽量	LD					LS
ステンレス製	SSD	SSW	SSG			
木製	WD	WW	WG	P	H	

建具金物略号

DC	ドアクローザ	TML	本締付モノロック
PH	ピボットヒンジ	BL	シリンダー南京錠
HC	ヒンジクローザー	CL	シリンダー本錠錠
FH	フロアヒンジ	HL	レバーハンドル錠
		SML	非常錠
		CH	ケースハンドル
		EL	電気錠

ガラス種別略号

F	型板ガラス	HP	熱線吸収板ガラス
P	フロート板ガラス	HR	熱線反射板ガラス
N	網入型板ガラス	S	ワーロンプレート
W	線入型板ガラス		鉄ワーロン（和紙入りタイプ）
NP	網入磨板ガラス		同等品
WP	線入磨板ガラス	TD	デザインガラス（6.6.ガラス）
T	強化ガラス		ヤントラル、綿子（Fタイスティック）
			同等品

伊万里労基 建築工事 （第1回変更）		8
建具表（1）	S：1/50	12
九州地方建設局営繕部 平成 年 月		

2011/03/29
12:18:57
JST

建具記号	記号	建具分類	動作種別	箇所数 1	2	R				計	建具寸法 W	枠巾	H	建具見込み	抑え込み	抑回り記号 枠・くつずり 水切・ぜん板 網・線	ガラス（ ）内はらんまを示す 種別	厚さ	がらり W	H	記号	仕上げ	建具金物	備考
AW	図示	両袖可動片引きガラス窓	R	10	4					14	2,770		2,465		70	A1 — B2	HP	5				B-2		ぜん板・網線 W=110
AW	〃	〃	R		2					2	2,770		2,465		70	A1 —	NHP HP	6.8 5				B-2		〃
AW	〃	〃	R		1					1	〃		〃		〃	A1 — B4	HP	5				〃		ロール網P
AW	〃	片引きガラス窓	R	2						2	〃		〃		〃	A1 — B2	HP	5				〃		ぜん板 W=110（t=1.6 加工） 網線 W=40
AW	〃	両袖可動ガラス窓	R		1					1	2,770		1,585		〃	A1 — B4	HP	5				〃		ロール網P
AW	〃	〃	R		3					3	〃		〃		〃	A1 —	NHP	6.8				〃		
AW	〃	片引きガラス窓	R		1					1	〃		〃		〃	A1 — B5（ガラリ網）	NHP	6.8	660	1,585	ロ-2	〃		
AW	〃	外倒しガラス窓	R		2					2	〃		〃		〃	A1 — B1	HP	5				〃	オペレーター	ぜん板 W=110（t=1.6 加工） 網線 W=40
AW	〃	はめころしガラス窓	R	2	2					4	900		900		〃	— B1	HR	6				〃	（面付けサッシ）	ぜん板・網線 W=140
AW	〃	たてすべり出しガラス窓	R	2						2	900		900		〃	A1 — B2	HP	5				〃		ぜん板・網線 W=40
AW	〃	引違いガラス窓	R	1						1	1,800		1,100		〃	A1 —	NHP	6.8				〃		
AW	〃	〃	R	1						1	1,800		2,000		〃	A1 — B1	HP	5				〃		ぜん板・網線 W=40
AW	〃	〃	R	1						1	1,500		1,585		〃	A1 — B1	HP	5				〃		〃
AW	〃	両袖引違いガラス窓	R	2						2	2,770		2,465		〃	A1 — B1	HP	5				B-2		〃
AW	〃	両袖引違いガラス窓	R		1					1	〃		1,585		〃	A1 — B2	HP	5				〃		〃
AW	図示	両袖可動片引きガラス窓	R		1					1	2,770		2,465		70	A1 — B2	HP	5				B-2		
AG	図示	アルミがらり	R			1				1	2,000		500		70	A1 — B5					ロ-2	B-2		
																註記	換気開口は HP-5							
AW	図示	カーテンウォール	R	1						1	1,200		7,080		立方 175	図示	HR	6	1,200	850	ロ-2	B-2		
AW	〃	カーテンウォール	R	1						1	3,700		4,245		〃	〃	〃	〃				B-2		

形状一覧表

（ ）内は標準詳細の分類番号を示す

分類	形状及び記号		
フラッシュ戸	A-1(4-01-1)	A-2(4-01-2)	A-3(4-01-3)
がらり付きフラッシュ戸	B-1(4-01-4)	B-2(4-01-5)	B-3(4-01-6)
ガラス入りフラッシュ戸	C-1(4-01-7)	C-2(4-01-8)	C-3(4-01-9)
ガラス入りがらり付きフラッシュ戸	D-1(4-01-10)	D-2(4-01-11)	D-3(4-01-12)
ふすま	E-1(4-01-30)	E-2(4-01-31)	E-3(4-01-32)

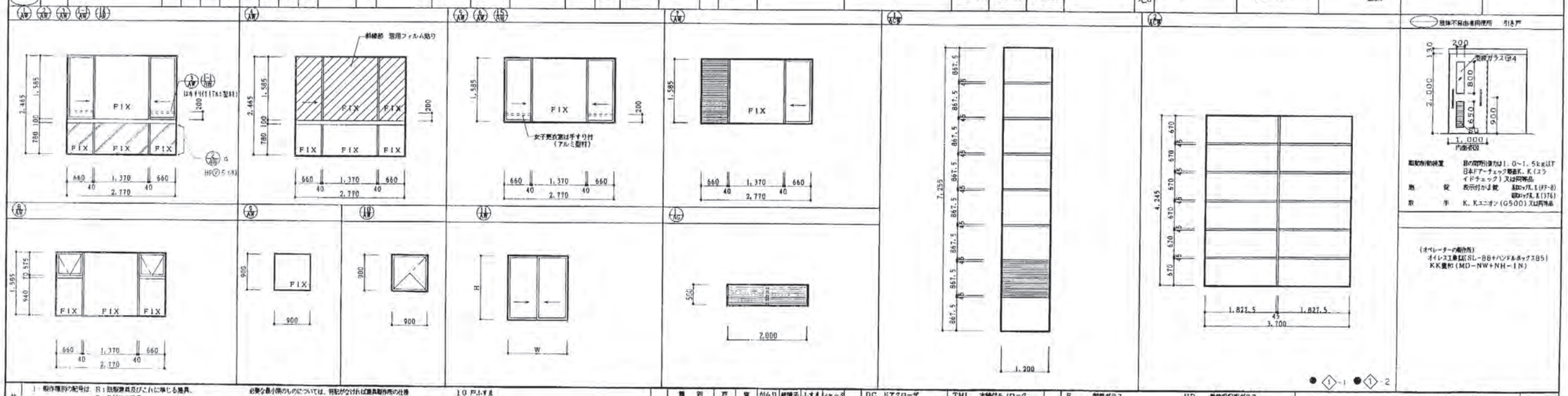
がらり形状

イ	ロ	ハ	表図
開口率 30~40% イ-1 BG イ-2 AG	開口率 30~40% ロ-1 BG ロ-2 AG	開口率 40~60% ハ-1 SG ハ-2 AG	W=1,500以上は方立を設ける。

建具枠面り詳細

（ ）内は標準詳細の分類番号を示す

種別	詳細及び記号				
アルミニウム製建具枠	水切 アルミニウム製 A1(4-51-1)	ダイム製 A2(4-51-2)	防水モルタル製 A3(4-51-3)	ぜん板及び網線 アルミニウム製 B1(4-52-4)	B2(4-52-1) カーテンボックス
	B3(4-52-6) カーテンボックス	B4(4-52-3) カーテンボックス	木製 B5(4-52-7)	網線 B6	ステンレス製 B6
鋼製建具枠	S1 (4-22-1) (4-25-1)	S2(4-22-2)	S3 (4-22-3) (4-25-2)	S4 (4-43-1) (4-44-1) (4-45-1)	防火戸 S5(4-46-1) 90分間 S6(4-47-1) 180分間
鋼製網戸建具枠	L1 (4-21-4) (4-22-4)	L2 (4-24-3)	L3 (4-26-1)	L4 (4-45-2)	
木製建具枠	W1 (4-11-1) (4-13-1)	W2 (4-11-2) (4-13-2)	W3 (4-11-3) (4-12-1, 2)		
くつずりなど（JIS A 5304 ⑤ 特記以外はステンレス）	-1(4-31-4)	-2(4-31-1)	-3(4-31-2)	-4(4-41-1, 2) (4-42-1, 2)	-5(4-43-1, 2) (4-44-1, 2)
	-6(4-45-1, 2)	-7(4-32-1)	-8(4-32-1)		



（オペレーターの動作用）
オイレス工業社(SL-88+ハンドルボックス285)
KK貴和(MD-NW+NH-1N)

共通事項

1 動作種別の記号は R：両袖建具及びこれに準じる建具、O：R以外の建具
2 建具枠の枠回り記号は建具枠回り詳細の記号による。
3 両開きフラッシュ戸の召合わせ部分は定規縁（金じゃくりを含む）とする。
4 引違の枠及び取手付き戸には、シリンダ本錠引違錠を付ける。
5 特記以外の建具仕様は「建築工事共通仕様書」の表16.8.1～表16.8.8による。ただし、既製またはこれに準じる建具用金物のうち機能上必要な最小限のものについては、特記がなければ建具製作所の仕様による。
6 防火戸の指定は特記する事。（16.1.3）（16.3.3）（16.10.2）
7 煙感知連動装置付き戸及び防火戸のDC，HC，FHは特記以外ストップなしとする。
8 建具で網線（アルミニウム製）、カーテンボックス受け板（アルミニウム製し型金物）等を取付ける場合は、特記する事。
9 アルミニウム製の水切り板、ぜん板及び網線は押出形材とする。
10 戸ふすま 特記仕様
・見込：20程度
・パネル：ラワン合板（タイプ B）T2.5フラッシュ
・上塗り：「共仕」による。ただし、パネルの上にべた張り
・周囲縁：「共仕」による。ただし、化粧くぎ打ち
・特記以外は製造所の仕様による。

建具略号表

種別	戸	窓	がらり	網戸	ふすま	シャッター
アルミニウム製	AD	AW	AG			AS
鋼製	SD	SW	SG			SS
鋼製軽量	LD					LS
ステンレス製	SSD	SSW	SSG			
木製	WD	WW	WG	P	H	

建具金物略号

DC ドアクローザ	TML 本錠付モノロック		
PH ピボットヒンジ	BL シリンダー錠錠		
HC ヒンジクローザー	CL シリンダー本錠錠		
FH フロアヒンジ	HL レバーハンドル錠		
AL エアタイト	EML 非常錠		
	CH ケースハンドル		
	CBL カード式電気錠		

ガラス種別略号

F 型板ガラス	HP 熱線吸収板ガラス		
P フロート板ガラス	HR 熱線反射板ガラス		
N 網入型板ガラス	NHP 熱線吸収網入磨板ガラス		
W 線入型板ガラス			
NP 網入磨板ガラス	常用フィルムの場合所		
WP 線入磨板ガラス	住友スリーエム社(SH2MAML)		
T 強化ガラス	三菱樹脂社(MDマット)		
	リンテック社(No. 1301)		

伊万里労基 建築工事 （第1回変更）

建具表(2) S:1/50

九州地方建設局営繕部
平成 年 月

9
12

H10HA07－235

2011/03/29
12:16:51
JST

伊万里労基 建築　　工事仕様書

I 工事概要

1. 工事場所(A) 佐賀県伊万里市立花町字大尾
2. 敷地面積(A) 1,269.75 m²
3. 工事種目
(A) 1) 庁舎 鉄筋コンクリート造2階建 新築(棟)
(一部、鉄骨鉄筋コンクリート造)

国有財産法 (m²)				建築基準法 (m²)	
建面積	439.59			建築面積	448.13
延べ面積	816.76	底面積	8.53	延べ面積	816.76
1F	439.59	1F	8.53	1F	439.59
2F	377.17			2F	377.17

2) 工作物
- ~~門 パリカー 新設一式~~
- 屋外排水設備 新設一式
- 舗装 アスファルト舗装、レンガ舗装、縁石、区画線、車止め 新設一式
- 植栽 新植一式
- 雑工作物 ゴミ置場、くつ洗い流し屋外掲示板、方丸板、身障者駐車表示板、旗ざお、懸垂幕装置、自転車置場 新設一式

(B) とりこわし (30/44 図による)

注) 庁舎の工事範囲は、下記工事を除くすべての工事とする。
(1) 金属製建具工事
(2) ガラス工事

II 建築工事仕様

1. 共通仕様
①図及び特記仕様に記載されていない事項はすべて建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書(平成9年版)」による。
2. 特記仕様
1)項目は番号に○印のついたものを適用する。
2)特記事項は◎印のついたものを適用する。
◎印のつかない場合は、○印のついたものを適用する。
◎印と○印のついた場合は、共に適用する。
3)特記事項に記載の( )内表示番号は、建築工事共通仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。
4)設計寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①工事実績情報の登録(工事カルテ)	(1.1.4) 請負者は、受注時は契約後10日以内に、変更時は変更があった日から10日以内に、完成時は完成後10日以内に、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、「工事カルテ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に、(財)日本建設情報総合センターにフロッピーディスクにより提出しなければならない。また、(財)日本建設情報総合センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出しなければならない。
	2.鉄入札談合防止対策対象工事(予算決算及び会計令第99条関係工事)	(1)施工体制台帳の提出及びその内容のヒアリングについて ①予算決算及び会計令99条の趣旨に基づく適格を不適格と認める場合においては、請負者は、事務所長等の求めに応じて、施工体制台帳を事務所長等に提出しなければならない。 ②①の書類の提出に際して、その内容のヒアリングを事務所長等から求められたときは、請負者の支店長、営業所長等は、応じなければならない。 (2)施工計画書の内容のヒアリング 予算決算及び会計令99条の趣旨に基づく適格を不適格と認める場合において、共通仕様書に基づく施工計画書の提出に際して、その内容のヒアリングを事務所長等から求められたときは、請負者の支店長、営業所長等は応じなければならない。
	③適用基準等	◎建築工事標準詳細図 建設大臣官房官庁営繕部監修(平成5年版) ◎建築設計標準図 建設大臣官房官庁営繕部監修(平成2年版) ・建築設計標準図 建設大臣官房官庁営繕部監修(平成5年版)
	4.発生材の処理	引渡しを受けるもの ( ) (1.1.13) 引渡しを受けない場合 ○構内 撤去廃棄物 ・市(別図) ・県
	⑤環境保全技術者	適用する (1.3.3)
	⑥技能士	適用工事種別 (1.5.7) ○鉄筋 ○型枠 ○左官(コンクリート、左官) ○塗装 ○アスファルト防水 ・タイル ・石張 ・建具 ・内装 ・造園
	⑦建材試験等	本工事に使用する建築材料等は、別記仕様に規定するものの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。なお、「試験名簿による」と特記されたものについては、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料評価名簿(平成9年版)」による。
	⑧特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該箇所の指定工法による。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	⑨工事写真等	営繕工事写真作成要領による(昭和61年4月)日、九州地方建設局営繕部制定)

区分	分類	規格	清影枚数	部数	現版の大きさ	備考
◎着工前	カラー	サービス版		1部	24×36以上	
◎工事中	カラー	サービス版		1部	24×36以上	
◎完成時	○モノクロームカラー	○キャビネ版・サービス版	5枚	1部	○89×127以上・24×36以上	外観主要7面 ※2部使・( )部使
		○キャビネ版・サービス版	15枚	1部	○89×127以上・24×36以上	外観主要2面 ※1部使 ○10部使
	○カラースライド		18枚	1部	24×36	配置図、各階平面図を含む。
○実態調査用	カラー	サービス版	4枚	2部	24×36以上	外観1面/棟

完成写真は下記基準の通配とし、撮影及び方法については、営繕工事写真作成要領による。
○監督職員の承諾する建築写真専門業者 ・監督職員の承諾する撮影者

工事完成図は下記について現付マイラーベース(アセテート系)0.4判2部を監督職員に提出する。
案内図、配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、内外部仕上表

工事中、敷地部その他本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原状に復する。

10.既存建物との取合い
①設備工事との取合い
施工範囲 別表-1による。
施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
②設計GL ※図による。 ・現状地盤の平均高さとし、監督職員の指示による。
③完成図 種別及び記入内容 (1.7.1)(1.7.2)
※表1.7.1による。 ( )
④竣工図等 工事完成後は監督職員の指示する施工図の原図及びその補足説明写図(1部)を監督職員に提出する。なお、当該建物の敷地する施工図等の著作権に係わる当該建物に関る使用権は発注者に帰属するものとする。
1.7.3(a)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督職員に提出する。 (1.7.1)(1.7.2)
電気室のための建築設備完全の手引き(建設大臣官房官庁営繕部監修)
提出部数 ※1部 -( )部
⑤保全に関する資料

章	項目	特記事項
2 仮設工事	①監督員事務所	種別 ・1号 ○2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・( )m²程度 ・設けない (2.2.3)(表2.2.1) 備品については監督職員の指示による。
	②工事用水	構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償) ※利用できない
	③工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償) ※利用できない
3 土工事	①埋戻し及び盛土	種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (2.3.3)(表2.3.1)
	②建設発生土処分	構外指示の場所 (2.3.5) 受け入れ場所 ( ) 搬出距離 (6 km) ・構内指示の場所 (・敷きならし ・たい積)
4 地業工事	1.既製コンクリート杭及び鋼杭地業	(4.2.2)(4.2.3)

杭の種類	規格、材質など	長さ(m)	断面寸法	継手及び継手部	先端部形状
高強度プレストレストコンクリート杭	・JIS規格品又は評価品 ※A種 ※評価品 ※B種・B種・種 ( )			※なし ・あり ※溶接式 ・( )	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・( )
・超高強度を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭	特許製品 ※A種・B種・C種			※なし ・あり ※溶接式 ・( )	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・( )

杭の施工法
・打込み工法 (4.2.3)
※プレボーリング併用打撃工法 プレボーリングの掘削深さ(m)及び径 深さ( )径( )
・杭打機 ※油圧パイルハンマー ・( )
・打撃工法
・杭打機 ※油圧パイルハンマー ・( )
長期設計支持力 (t/本)( )
支持力の確定方法
※昭和48年1月28日建設省告示第111号(改正昭和53年10月20日建設省告示第1403号)による。

・埋定埋込み杭工法 (4.2.4)
建築基準法第37条の規定に基づく建設大臣の認定を受けた工法で、長期許容支持力の算定式を満足する工法
$Ro = \frac{1}{3}(2\delta Rp + (\frac{1}{3}\delta Rs Ls + \frac{1}{3}\delta qu Lc)\varphi)$
・セメントミルク工法 (4.2.5)
※トロップパンマーによる軸打 ・( )

2.場所打ちコンクリート杭地業
杭頭の種別 ※高強度杭 (4.4.2)
コンクリートの種別 ・A種 ・B種 (表4.4.1)
場所打工法 (4.4.4)
・アースドリル工法 ・リバース工法 ・オールケーシング工法

3.試験杭
杭の本数 ※最初の1本 ・( ) (4.1.4)
杭の種類 ※本杭と同じ ・( )
杭の寸法 長さ(m) ※本杭と同じ ・( )
断面寸法 ※本杭と同じ ・( )
必要長期設計支持力 (t/本)( )

④割り石・砂・砂利地業
材料 ※再生クラッシャラン ・砂利 ・割り石 ・砂 (4.6.2)
厚さ ※30 ・( )
⑤均しコンクリート地業
厚さ ※60 ・( ) (4.5.2)
⑥床下防湿層
※ポリエチレンフィルム 厚さ ※0.15 ・( ) 重ね幅 縦、横共250以上 (4.5.8)
⑦地盤の載荷試験
試験の種類 ・平板載荷試験 設点の( )箇所
試験対象土質( ) 試験深さ(m) 設計GLより( )
最大荷重(t)( ) 載荷板 ※300φ ・300×300

章	項目	特記事項
5 鉄筋工事	①鉄筋の種類	材質 ※JIS規格品 ・5.2.2(B)の試験に合格するもの (5.2.1)

種類	○SD295A	○SD345	・SD390	・	・	・
径	D16以下	D19以上				

②鉄筋の継手 (5.2.1)

部位	継合方法	径	備考
柱梁の主筋	※ガス圧接・重ね継手・( )	※D16以上・( )	
その他	※重ね継手・( )	※D16以下・( )	

施工箇所( ) ・最小かぶり厚さ・( ) (5.3.2)
上記数値は表5.3.6の値に加える寸法
・A形 ※B形 (5.4.1)(図5.4.1)
筋の種別 ※H形 ・W-I形 ・W-II形 ・( ) (5.5.2)
一般壁 ※A形 ・B形 (5.7.1)(表5.7.3)(表5.7.4)(図5.7.3)
耐震壁 ・A形 ※B形 ○(図示)
③壁開口部補強の種別
※入れる ・入れない (図5.8.10)
補強箇所 出る形鉄筋のスラブ ( )
※入れる ・入れない (図5.8.11)
補強箇所 ○土間コンクリート ・大梁 ・( )
補強形式 ※H形 ・MH形 ・M形 (5.10.1)(表5.10.1-1)(図5.10.1-1)
スリーブの材種 ※硬質塩化ビニル管 ・鋼管 ・鋼管塩化ビニル管 (5.9.3)(表5.9.3)
④土間スラブ打継ぎ補強
⑤土間コンクリート補強
⑥はり貫通孔
⑦圧接完了後の検査
検査方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験 (5.11.4)

章	項目	特記事項
6 コンクリート工事	①設計基準強度及び検査強度	(6.1.4) 設計基準強度(Fc) N/mm² 種別 ・18N ※21N ・27N ・24N ・ ・ 検査強度(Fc) N/mm² 種別 18 21 27 24 ・ 普通コンクリート 部位 柱梁 軽量コンクリート・1種・2種 部位
	②レディーミクストコンクリートの種別	※1種 ・II種 (表6.1.1)
	③セメントの種類	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種 ( ) (6.3.2)(6.16.2) 上記普通ポルトランドセメントは、JIS R5210(ポルトランドセメント)に定められた規定の他、有害の規定に適合しなければならない。 全アルカリの量は、JIS R5210ポルトランドセメント(低アルカリ形)による

水和熱(cal/g)	7日	84以下
	28日	88以下
全アルカリ(%)		0.75以下
塩素(%)		0.02以下

④床型枠用調製デッキプレート 建設技術評価「鉄筋コンクリート建築物等における床型枠用調製デッキプレートの開発」において評価を取得したもの又は評価を満たすものとする。 (6.9.3)
⑤無筋コンクリート

発注強度	適用箇所
15 N/mm²	
18 N/mm²	

⑥水密コンクリート
施工箇所 ( )
水セメント比 %/cc(C/Wc) ○50 ・( )
スランプ(cm) ○15 ・( )
混和剤 ( )
製造所
⑦打放し仕上げの種別 (表6.7.3)

種別	適用箇所
・A種	
○B種	防水立上がり 図示
○C種	図示

章	項目	特記事項
7 鉄骨工事	①採寸の製作工場	○「溶接作業判定基準」に適合する製作を行う製作工場又は建設省告示1103号に基づき建設大臣が認定した製作工場 (第29/44図による) (7.1.3) ※監督職員の承諾による
	②施工管理技術者	選任 ※しない ・する(・1級 ・2級) (7.1.4)
	③鋼材の種類	材質 ※JIS材の規格品 ・7.2.1(B)の試験に合格するもの (7.2.1) 種類 ・SN400A ・SN400B ・SN400C ・SN490B ・SS400 ・SSP355 ○SS400 ・SM400A ○SM400B ・SM490B ○SS490 ・STK400 ○STKR400 ・( )・( )・( )・( )・( )・( )
	④高力ボルト	○トルシア形高力ボルト(認定品セットの種類 ※2種(S10T) ・( ) (7.2.2) ○摩擦接続のっき高力ボルト(認定品セットの種類 ※1種(F8T相当) ・( )
	⑤アンカーボルト	材質 ・SNR400B ○SS400 (7.2.4)
	⑥ターンバックル	ターンバックル胴の種類 ※組枠式 ・( ) (7.2.5) ターンバックルボルトの種類 ※組平面ボルト ・( )
	⑦柱底均しモルタル	工法 ○A種 ※B種 (7.2.8)(7.10.3)(表7.10.2) 高強度モルタル製造所 評価名簿による
	⑧溶接部の検査	(7.8.11)

試験の種別	試験箇所	試験方法	備考
※超音波探傷試験	柱、大梁の現合仕口部梁端部	・7.8.11(B)による ○15mm	

章	項目	特記事項
	⑨錆止め塗料	種別 ※表7.9.1による (7.9.1)
	10.耐火被覆	種別 ( ) (7.10.1) 所要性能 ・時分耐火 ・1時間耐火 ・( )
	⑪アンカーボルトの保持及び埋込み工法	種別 ・A種 ※B種 ・C種 (7.11.3)(表7.11.1)

章	項目	特記事項
8 ALCパネル工事 押出成形セメント板工事	1.補強コンクリートブロック積み	種別 ※C種(※普通ブロック ・防水性ブロック) ・( ) (8.2.2) 厚さ ( )
	②コンクリートブロック帳壁	種別 ※表8.3.1による ( ) (8.2.2) 工法 コンクリートブロック補強壁の構造さは、壁厚の25倍から3,500以内とし、その他の部分は、現場の鉄筋コンクリート造壁とする。

章	項目	特記事項
9 防水工事	①アスファルト防水	(表9.2.5～表9.2.11)

施工箇所	種別	防水層の押さえ	備考
車庫、リフレッシュルーム部分屋根	AI-2	※あり ・なし	
階段室屋根	C-1	※あり ○なし	
		※あり ・なし	

屋根保護防水解熱工法の種類材
JIS A 6511による押出法ポリスチレンフォーム3種のスキン層付き 厚さ ※25 ・( ) (9.2.7)
防水立上がり部の保護材 ※セメントれんが ○(コンクリート) (9.2.2)(3.2.5)
施工種類 ※監督職員の指示する目標に施付ける (表9.2.11)

施工箇所	種別	仕上塗料塗り(露出の場合)
玄関庇	・S-1 ・S-2	※カラー ・シルバー
	・S-3 ・S-4	

②合成高分子系ルーフィングシート防水 (表9.4.1)

施工箇所	種別	仕上塗料塗り(露出の場合)
	・X-1 ・X-2	※カラー ・シルバー
	・X-3	

③塗膜防水 (表9.6.1)
表9.5.1による。
接着性試験 ※標準接着性試験 ・別体接着性試験(部位) (9.5.5)
④シーリング用材料

章	項目	特記事項
10 石工事	①屋内の床の清掃	汚れ防止及びつや出しワックス ※使用する (10.1.6)
	②壁及び特殊部位の石張り	・モこう剤 (10.2.1)(10.7.2)(10.7.3)(表10.2.1)(表10.2.2) 石の品質 ※1等品 ・( )

施工箇所	種類・産地・名称	仕上げの種類	工法

ジェットバーナー仕上げのバラ仕上げ ※あり ・なし (表10.2.1)
○大理石
石の品質 ※1等品 ・( ) (10.2.1)(10.7.2)(10.7.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種類・産地・名称	仕上げの種類	工法
便所前室	ビチャコロウラ	※本磨き ・( )	
		※本磨き ・( )	

③床及び階段の石張り
石の品質 ※2等品 ・( ) (10.6.2)(10.6.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種類・産地・名称	仕上げの種類	備考
便所 洗面台	ウスキンバーグ	※目磨き ○(本磨き)	
		※目磨き ・( )	

4.外部目地 目地シーリング ※あり(目地幅 ※8 ・) (10.3.1)(表9.3.1)
5.石裏面処理 型式工法の場合は行う (10.4.2)(10.8.2)(10.8.7.2)
※行う (10.4.2)(10.8.2)(10.8.7.2)
・次の箇所には行わない( )
金属、樹脂等の粘着工法の場合は行う
6.裏打ち処理 (10.8.7.3)
7.石裏の補強用モルタル
⑧製造所及び施工業者 ○監督職員の承諾による ・下記による

章	項目	特記事項
11 タイル工事	①陶磁器質タイル張り及びタイル型枠先付け	(11.7.1)(表11.2.1)

施工箇所	形状・寸法	きじの質				うわぐすり		仕上げ		色		素木仕上げ	備考
		磁器	ギョウ器	陶器	無ゆう	透明ゆう	有	無	無地	模様	特注		
玄関ポール 壁	ニコ積	・	○		○	・	○	・	○	・	・		
・ 床	300角	○		・	○			○	○	○	・		
便所 壁	100角	○			○			○	○	・	・		
便所、湯沸室	100角	・	○		○		○	・	○	○	・		
		・											
外壁	50角	○				○	○		○				
		・											
		・											

壁タイル張りの工法 (11.3.3)
※表11.3.2による ・( )
・タイル型枠先付け工法
種別 ・ライムシート法(小口タイル、二丁掛タイル) ・( ) (11.4.2)(表11.4.1)
タイル型枠先付け面のせき部の種別
※表6.2.2の○印のせき板又は金属製タイル先付け用パネル ・( ) (表6.2.3)

章	項目	特記事項
12 木工事	①木材	化粧処理を施しない部位( ) (表12.2.1)
	②集成材	○通常用集成材 (12.2.2(2))

施工箇所	構成材料の種類	部材の厚さ	備考
階段手摺	ケヤキ	※15円形・( )	

○化粧ばり通常用集成材
仕上げ ※A種 (12.2.2(3))

施工箇所	化粧単板の種類	化粧単板の厚さ	備考
客室壁・鏡柵	ケヤキ(柾目)	※0.6 ・( )	防虫

章	項目	特記事項
13 屋根及びとい工事	1.折板葺	(13.3.2)

材種	形式による区分	出隅及びピッチ	標準(mm)	形方による区分
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板	波型折形又ははぎ試め形	山高 ( )		種
・		ピッチ ( )		

専門業者 ※監督員の承諾による ・下記による
2.スレート瓦葺屋根(外壁を含む)
施工地域 ・強風地域 (13.4.1)(13.4.3)

	小屋	中段	大棟	リブ段	袋棟	備考
屋根	・	・	・	・	・葺・置	
壁	・	・	・	・	・葺・張	

(13.5.7)(表13.5.1)
③とい

材種	径	使工箇所	備考
○配管用炭素	100φ、80φ、60φ	バルコニー後部、便所、電気室屋根、機械室屋根、2階前	
・ステンレス鋼管			SUS304 厚さ
○硬質塩化ビニル管(VP)	75φ	リフレッシュルーム屋根	

とい受金物 ※ステンレス製 ・鋼製(亜鉛めっき) (表12.5.2)
防雪金具 ※表13.5.1により行う (13.5.3)
・次の箇所には行わない( )
④集水桝用雨水排水金物 外山鉄工 KK(パーフェクトルーフ)同等品。 ・現場 ○4φ ・一文字金具(ロッカ)塗装。

章	項目	特記事項
14 金属工事	①鉄の亜鉛めっき	(14.7.3)(表14.2.2)

施工箇所	亜鉛めっきの種類	備考
客船活動室、会議室吊り木	・A種 ・B種 ※C種	
電気内線管	○(C)種	

②全溶接形板張り (14.7.2)

材種	○アルミニウム	
製法	※押出し ・プレス ○ロール	
寸法	板幅 ※100 ○600角 厚さ ※1.0 ・( )	
表面処理など	・A-1種 ・B-1種 ・A-2種 ○B-2種・( )	

接続継手 ・設ける ○設けない
③アルミニウム製笠木
部材の種類 ○200形 ・350形 ・( ) (表14.5.1)
表面処理 ※A-1種又はB-1種 ○(B-2種) (14.5.7)(表14.2.1)
埋上げ型埋込システム ※無 ・有

部長	伊万里労基 建築工事	
	特記仕様書(その1)	
以下審査済	九州地方建設局営繕部 平成 年 月	42

2011/03/29
12:16:54
JST

15 左官工事

①防火材料など
②防水モルタルの防水剤
③仕上塗材仕上げ

屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は、建築基準法に基づく告材商等の認定表示のあるものとする。

製造所　小田急油材ベストン（ベストン®）、XX日本セメント防水剤製造所（ウォータイト®等）
XXマノール（マノール防水剤）

(15.7.2)(表15.7.1)(16.7.8)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・薄付仕上塗材	○外壁薄塗材E	○砂壁状 ・看板及び砂壁状	吹付け	
	・内装薄塗材E	・砂壁状じゃらく		
	・セラミック内装薄塗材E	・砂壁状（	刷毛付け	
	・防水形外壁薄塗材E	・凹凸状	・ローラー	
	・外装薄塗材G	・砂壁状	吹付け	
	・内装薄塗材W	・京壁状じゃらく		
・厚塗仕上塗材	厚塗材C(E)	・ゆず肌	刷毛付け	・上塗材 XX系アクリルウレタン ・水系ポリウレタンつやあり （　　） E)の場合は 溶剤系ポリウレタンつやあり
	・ローラーなし厚塗材C(E)	・凹凸状	・ローラー	
	厚塗材E(E)			
	厚塗材G(E)			
	厚塗材S(E)			
	厚塗材W(E)			
	防水形厚塗材E(E)			
	防水形厚塗材G(E)			
	防水形厚塗材W(E)			
	・防水形厚塗材RS	・凹凸状	刷毛付け ・ローラー	溶剤系ポリウレタンつやあり
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量骨材	・砂壁状	吹付け	
	・こて塗用軽量骨材	・平たん状	こて塗り	

(15.8.2)

種類	色彩	厚さ
・一般所　・（　　）	・単色　・調色	・12　・15　・20　・（　）

16 建具工事

①アルミニウム製建具

(18.2.2～4)(表18.2.1)

種別	外部に面する建具			内部建具
単層窓サッシ	単A種	・B種	・C種	
・防音サッシ	性能（　　）			
・結露防止サッシ	性能（　　）			
複層窓組建	・A-1種	・A-2種	単B-1種	○B-2種　・（　）　単C-1種　・C-2種

②網戸
③網戸軽量建具
4.ステンレス製建具

(18.4.2～4)
(18.4.2～4)

⑤自動ドア開閉装置

(18.6.2～8)

出炉面納まりの有動式　・（　　）
網の材質　XXガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製　・合成樹脂製
召合わせ、縦小口当み相などの材質　XX ステンレス鋼板　・鋼板
曲げ加工　XX曲げ曲げ　・角出し曲げ

(18.6.2～4)

開閉機能の性能等　スライディングドア用　XX表18.6.1 による・（　　）
スイングドア用　XX表18.6.2 による・（　　）
駆動力　XX電気式又は電動油圧式・（　　）
電源　XX表8101（通電調査設備参照）・（　　）
センサの種類　XX熱線
非常センサ　XX安全光線スイッチ1箇　・（　　）
工事範囲　一次配線は別途工事とし、開閉機械及端の二次配線は本工事に含む

(18.6.2～8)

⑥木製建具

(表18.7.1)(18.7.2～8)

建具の種類　・A種　XX B種　・C種
代用部材を適用しない箇所　（　　）
合板　XX普通合板　・難燃合板　・防腐合板
フラッシュ戸の表面板の厚さ　XX表18.7.1 による　・（　　）

(表18.8.2)(18.8.2～4)

⑦建具用金物
◎マスターキー
・本締まり付き
モノロック
◎シリンダ錠類
◎シリンダ本締まり錠
◎ドアクローザ
・ピンジクローザ
・フロアヒンジ
・ピボットヒンジ
◎レバーハンドル錠
・非常錠（本締まり錠）

XX製作する（XX新規　・既存に合わせる）　・製作しない
製造所　詳細名簿による

製造所　詳細名簿による
製造所　詳細名簿による
製造所　詳細名簿による
製造所　詳細名簿による
製造所　詳細名簿による
製造所　詳細名簿による
JIS による
仕上げ　XX ステンレスHL仕上げ　・（　　）
適型　XX丸座　・長座
錠種類　XXゴールド(LX-H15)、昭和ロックXX(DL-UL23)、美和ロックXX(LA-B3)
製造所
XXゴールド(PN20)、昭和ロックXX(EE15)、XXニッカク(KKP)、(株)環境品(HK,HD1)、美和ロックXX(BH-EE)

(18.8.2(5))(18.8.2)(表18.8.1)

⑧ガラス留め材

(18.8.2(5))(18.8.2)(表18.8.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	XXシーリング材(GM-1)　・グレイジングガスケット
鋼製、ステンレス製	XXシーリング材(GM-1)

⑨防音シャッター

(18.10.2～4)

種類による種類
◎一般シャッター　・防火シャッター(・外壁用　・室内用)　・防煙シャッター
シャッターケース（防火、防煙以外の場合）　◎設ける　・設けない
開閉機能による種類　(表18.10.1)
XX上部電動式（手動併用）　電源XX三相 200 V 0.2KW 以下（通電調査設備参照）・（　　）
・上部手動式
工事範囲　一次配線は別途工事とし、開閉機械以端の二次配線は本工事に含む

(18.10.2～4)

10.軽量シャッター

(18.11.2～4)(表18.11.1)

開閉機能による種類
XX手動式
・上部電動式（手動併用）　電源XX相 100 V（通電調査設備参照）・（　　）
工事範囲　一次配線は別途工事とし、開閉機械以端の二次配線は本工事に含む
スラットの材質　XX金属薄鋼板約○ｍｍ厚・（　　）
ガイドレールの材質　XX ステンレス(SUS 304)・（　　）
シャッターケース　XX設ける　・設けない

⑪鏡類

型式　・枠本（　箱）　◎枠本（1　面）　・枠本（　面）　・200本（　面）
鏡製作図作成とし、設置場所の承認による

17 塗装工事

①防火材料
⑥素地ごしらえ
③色調・塗料性状表
④施工場所

屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、防火材料とし塗装基準法に基づく告材商等の認定表示のあるものとする。

(17.1.8)

(17.2.1)

ぜっこうボード　超音波探査工法の場合の素地ごしらえ
・A種　XX B種
製造所　大日精化工業KK（ダイステップ 1000）
大日技研工業KK（ラッキークスコート WS 硬水剤）
XX日本塗装工業会の会員　・監督職員の承認する塗装業者

(17.2.2)

18 内装工事

①ビニル床シート張り

(18.2.2)(18.2.3)

材種	種類	記号	色柄	厚さ	工法	備考
ビニル床シート	発泡層のないもの	NC	・無地 XX 模様	・2 XX2.5	XX熱溶接 ・張付け	

②ビニル床タイル張り

(18.2.2)(18.2.3)

材種	種類	形状	厚さ	製造所
ビニル床タイル	XX コンポジションビニル床タイル(A級類) ・（　　）	XX 300 角 ◎(300角)	XX 2 ・1 ・（　）	aによる
	・帯電防止ビニル床タイル(複数タイプ)	XX 500 角	XX 4 以上	bによる
	・帯電防止ビニル床タイル(パスパー併タイプ)	・（　）	・2	cによる

帯電防止ビニル床タイル（複数タイプ）の種類及び品質は製造所とし、製造所の指定する製品とする
a.共通仕様書の規定による品質・規格を満たす材料
b.XXタジマ（レイフラットタイルSD）、　東洋リノリュームXX（パースレイルタイルLLフリー）、
ポリマーブルXX（アンチスタ AS）、　ロンシール工業XX（ロンタイルCA）
c.XXタジマ（レイヴンタイルSD）、　東洋リノリュームXX（フレータイル）、
ポリマーブルXX（アンチスタ PM－T）、　日東紡績XX（ニットータイルES）

③ビニル幅木

材種　XX新貼　・現貼

(18.2.2)

厚さ　XX8　・（　　）
高さ　XX60　・75　・100　・（　　）

(18.3.2)(18.3.3)(表18.3.1～7)

④各種樹脂塗り床

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	・平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
XX エポキシ樹脂塗り床材	XX 骨材散布・表面仕上げ　・XX砂利・表面仕上げ（・平滑・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（・平滑・防滑）　・防滑仕上げ

⑤せっこうボード
その他ボード張り

(18.4.2)

種類	種別	張り方	厚さ	備考
◎化粧石こうボード	◎トラバーチン調板	流張り	XX9.5	防火指定材不用とし寸法は表18.5.1に準ずる・（　　）
	◎水晶調板（貝殻材）	鏡張り	XX8.5	防火指定は準不燃とし専用規格不適材料
◎耐石綿セメント板カハシウム板		・目地処理付 ◎目透し ・縦目地張	XX6・・8 ・12・・15 ・（　　）	JIS A 5413に準拠したノンアスベストのもの
◎水酸セメント板	・難燃水酸セメント例 ◎難燃水酸セメント例		・23 XX28 ・30	

難燃不燃セメント板の材種はJIS規格品（規格3品）、又は施設等防火設定場不燃第2号の指定品とする
通常シール材　XXアクリル系シーリング材(AC-1)　・ジョイントセメント(JIS A 5814)

(18.4.2)(18.4.2)(表18.4.2)

⑥合板張り

材種	適用の品質	厚さ	工法
◎構造合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ポリウレタン合成・（　　） 不透明塗料塗りの場合 無しの合成・（　　）	◎6.5・・8　・12 ・5.5・・8　・12	・4種 XX8種
・特殊合板			

(18.4.2～18.5.1)(表18.5.1～表18.5.4)

⑦フローリング張り

種別	種種	工法及び寸法	備考
複合	XX複合1種フローリング ・（　　）	XX なら接着 ・（　）	XX釘どめ工法 ・A種　・B種　XX C種 ・接着工法	XX接着品 ・無接着品
単層				

(18.5.2)

⑧壁紙張り

施工箇所	品質	種類	防火設備の級別
居室壁	織物壁紙	サンゲツ(SG-6941)	◎1級　・2級　・
廊下天井壁	和紙壁紙	サンゲツ(SG-5330)	◎1級　・2級　・
浴室壁	〃	〃	◎1級　・2級　・
リフレッシュルーム	ビニル壁紙	サンゲツ(SG-6937)	・1級　◎2級　・
			・4級　・2級　・

製造所　XX川島織物、XXサンゲツ、XXリリカハシ、XXチスコ（ビニルのみ）、ルノンXX
無機ごしらえの種別　(18.6.2)
モルタル及びプラスター面　・A種　XX B種
せっこうボード面　・A種　XX B種
工事範囲　内装専門業者とする。

⑨畳敷き

種別　・A種　・B種　XX C種　・D種　(表18.7.1)

⑩カーペット敷き

(18.8.2)(18.8.3)(18.8.4)(表18.8.1)(表18.8.2)(表18.8.4)

種類	種別	種別	パイルの形状	織り方	パイルの形状
・敷じゅうたん	・A種	・B種	XX C種	XX三層織り・（　）	XXカットパイル　・（　）

製造所　(18.8.2)

下敷き材　耐反毛フェルト(JIS L 5201)第2種2号(厚さ)　・（　　）

(18.8.2)(18.8.3)(18.8.4)(表18.8.1)(表18.8.2)

種類	種別	パイルの形状	寸法	線厚さ	色柄	備考
◎タイルカーペット	XX A種 ・B種	◎ループパイル ◎カットパイル	XX 500 角 ◎(500角)	XX 3 ・(9	XX無地 ・柄染	滑落防止及び 防汚加工品

製造所　XX川島織物、XXサンゲツ、住江織物XX、XXタジマ、東洋リノリュームXX、
東レリビングXX、日東紡績XX、三菱パーリットンXX、ロンシール工業XX

JIS 規格品　厚さ　XX1.2　・1.8　・（　　）

◎打込み断熱材

(18.8.2)(22.2.2)

材種	種類	厚さ
XX ポリスチレンフォーム保温板	XX3種b・（　） ・3種b（後地部分）	XX25　・（　）
・硬質ウレタンフォーム	・1種2号　・（　）	・（　　）

施工箇所
XX現場見施工法に示された施工箇所以外の箇所

◎現場発泡断熱材（吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材）　(18.8.3)
断熱性　XX3級　・2級
厚さ　◎25　・
施工箇所　XX窓口等の断熱補強部分
製造所　アキレス KK、KK エーピーシー商会、KK ウレテストン

上記製品は特定フロンを含まないものとする。

⑬吸音材

材種	品質・規格	厚さ
・ロックウール吸音材	ロックウール吸音ボード1号(ＭＫ)	・25・（　）
◎グラスウール吸音材	グラスウール吸音ボード4号32K グラスクロス(JIS R3414EP-17A)防錆処	XX25

ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード(JIS A 9504)　の取付け工法
ポリプロピレン及びプラスチックフェスナー留め　4本/m2 程度以上

14.樹脂成形品

付属品の材料は、主材製造所の仕様による
製造所　大建工業XX（パステンフィドデザインシリーズ）、フクビ化学工業XX（バスパネル）
松下電工XX（パスリブワイドストライプ）

⑮床下地材

材質　樹脂製
製造所　積水化学工業KK（カネパールネダ）、三洋工業KK（サンフォームネダ）
積水化学工業KK（エスレンネダマット）、三菱化学（ネダフォーム）

16.塩ビシート

製造所

19 舗装工事

①路床材料
②路床土の支持力比（CBR）試験
⑤路床締固め度の試験
④路盤材料

盛土の種別　・A種　XX B種　・C種　・D種　(表3.2.1)
施行わない　・行う（XX品した土　・品さない土）　(18.2.5)
施行わない　・行う　(18.2.6)
XXクラッシャラン0～40、クラッシャランスラグ0～40 又は、　(18.2.3)(表18.2.1)
再生クラッシャラン80～40
・（　　）

⑤アスファルト舗装

油脂アスファルト混合物の種類　(表18.4.1)

一般地域	XX再生密粗度アスファルト混合物(13) ・密粗度アスファルト混合物(13) ・細粗度アスファルト混合物(13)

シールコート　・行う　XX行わない　(18.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験　・行う　◎行わない　(18.4.6)
コンクリート舗装等に使用するコンクリートは表18.6.2による。　(18.6.3)
本設セメント　XX使用しない　・使用する

7.コンクリート舗装

⑦ブロック系舗装

・インターロッキングブロック舗装
厚さ　XX 60　・80　張り方　XXヘリンボンボンK、・ストレッチトーボンド　・亜示
色　XX無彩色　・特注色　・着色　XX表層厚18　・全体
製造所　(社)インターロッキングブロック協会正会員
◎レンガ舗装　形状へ230×114×50　敷パターンへ市松
トラフィックペイント　JIS規格品　製造所へ　長木産業KK
駐車区画線　XX3種　・実線型(厚1.5種)
区画線幅　◎15　◎(100～角線表示（900角）
◎身障者用駐車スペース表示（900角）　(PAH マーストアルフレッド)同等品
・駐車スペースナンバー表示（　角）

⑧区画線等

20 排水工事

①排水管
②排水桝及びふた

材種　◎遠心力鉄筋コンクリート管（HP）◎硬質塩化ビニル管（VP）　(26.2.1)(表26.2.1)

種類

種目	A1	A2	B1	B2	B3
道路工事 簡易舗装区間等	0-14-1	0-14-1	0-14-4	0-14-5	0-14-6
備考					

注）A2タイプは補助割当材

③鋼製グレーチング
4.鋳鉄製マンホールふた

製造所　詳細名簿による
製造所　鋳鉄材料等詳細名簿による

⑤埋め戻し材料

XX表2.2.1「埋戻し及び盛土の種別」による　XX種　・（　）種

21 植栽工事

1.植栽基盤
2.土壌改良材

XX土は 31.2.1(2) による　(21.2.2)(21.2.4)
・適用する　・適用しない　(21.2.4)

③植樹

植込み用土　XX現場発生の良質土　・客土（厚さ・（　　）・防風）　(21.2.2)

4.芝張り

種別　XXこうもり芝　・野芝　・（　　）　(21.4.2)(21.4.3)
植込み用土(厚18)　XX客土　・現場発生の良質土　(21.4.2)

5.樹名札

図示による。

⑥枯損樹木などの植替え

XX引渡しの日から1年　・（　　）　(21.7.3)(21.7.4)(21.7.5)(21.7.7)

22 カーテンウォール工事

①メタルカーテンウォール

(18.2.2)(22.1.3)(22.2.2)

主要構成材料　XXアルミニウム製　・ステンレス製			
性能	種別		
	◎A種	・B種	・C種
耐風圧性	XX S-4 ・（　）	XX S-3 ・（　）	XX S-3 ・（　）
気密性	XX A-3 ・（　）		XX A-2 ・（　）
水密性	XX W-1 ・（　）		XX W-1 ・（　）
枠の見込み寸法	XX図 所		
表面処理	・A-1種 ・A-2種	XX B-1種 ◎B-2種	・（　）
耐震性(層間変形角)	XX 1/200	・（　）	
耐火性	・30分	・1時間	・（　）

シーリング材の種類　XX 3.3.1 による　(22.2.2)

②階段滑止め

◎金属製　材種　XXステンレス製(DSS04)　(22.2.2)
形式　XXビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り
幅　XX15　・（　）
取付け工法　接着工法
製造所　アトラス産業KK(SEP SEL No.101(9.03))　ナカ工業(SH-33K)
・踊場製

形式	使用幅	並木受付	製造所
◎型	400～600	アルミ押出型材	アトラス産業KK（リンダープロテクター） ナカ工業KK（ビニレーン、グラハン）
・型	・600～900 ・900～1200	XX 鋼 材 ・（　）	アトラス産業KK（ハンドレール） ナカ工業KK（ナカハンドレール）

③床目地棒

床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる。
XXステンレス製T型（幅40内外厚3）　・ステンレス製(X12　・黄銅製(X12

④フリーアクセスフロア

製造所　詳細名簿による　(22.2.4)

⑤トイレブース

材質　表面材　高圧メラミン化粧板　(22.2.5)
縁木　XXステンレス製　・（　　）
形式　・戸当り付、中吊り、　エッジ　・丸木　・アルミ押出型材
製造所　詳細名簿による

⑥カーテンボックス

・鋼製
XXアルミニウム製既製品（押出型材）　色彩　XXシルバー　・着色

⑦ブラインド

(22.2.6)

形式	XX横型ブラインド(JIS A4461)	・縦型ブラインド
スラットの材種	XXアルミニウム合金	・アルミニウム合金　・クロス
開閉方式	XXギヤ式・コード式・操作棒式	
スラットの幅	XX25　・35	・80　・100

(22.2.7)(表22.2.1)

⑧カーテン

施工箇所	材料地色布品質	ひだの種別	形式	開閉装置
会議室	遮光カーテン 川島(アルファ) XX上 遮熱	日	・片引き　◎引分け	・有　XX無
事務室	L-2、川島(アルファ)XX	〃	・片引き　◎引分け	・有　XX無
			・片引き　・引分け	・有　XX無
			・片引き　・引分け	・有　XX無

製造所　アスワン KK、XX川島織物、KKサンゲツ、KK KSタカハシ、住江織物KK、KKテスコ
カーテンレール
材種　XXステンレス製　・アルミニウム製　・鋼製
形状　XX0型又は1型　・1型

⑨ホワイトボード

(22.2.8)

種類	取付方法	仕上げ材	形状	備考
ほうろう台板	敷付け	XXアルミニウム製 ・（　）	XX平面 ・曲面	マジック消材

⑩壁裏ライニング

(22.2.10)

◎建築用成形ライニング材
製造所　詳細名簿による
◎キャスタブル耐火物
製造所　大光炉材KK（LA-FH1）、東興建設KK（不動印FC-ST）

⑪壁ボード出隅保護金物

材質　XXアルミニウム押出型材及び鉄　・（　　）　(22.2.12)
仕上　XXシルバー　・着材　・（　　）

⑫天井見切縁

材種　XXアルミニウム押出型材　・塩化ビニル製
施工箇所　XX仕上げによる　・（　　）

⑬点検口

施工箇所	材種	寸法
天井	XXアルミニウム　・（　）	XX450×450　・600×600
床	・アルミニウム　XXステンレス	・450×450　XX600×600

製造所　詳細名簿による

14.可動間仕切（既製間仕切）

構造形式	表面構造及びその厚さ	仕上げ	パネル表込み及び構造
・パネル式	鋼板　XX0.8以上　・（　）	アクリル樹脂塗料焼付(常温色)程度	XX60以上　・（　） 遮音性に応じ適当なものとし選択したもの
・スタッド式	鋼板　XX0.5以上　・（　） スタッド・アルミニウム製4角	メラミン樹脂塗料焼付(常温色)程度	XX80以上　・（　）

ガラス留め材　XXガスケット　・（　　）
製造所　JIS A6012によるものの又は評価名簿によるもの

15.移動間仕切（スライディングドア）

表面板	仕上げ	パネル厚	吸音性
鋼板	XX 鏡 材 仕 上 ・（　）	XX60　・80　・100	・一般タイプ ・遮音タイプ

製造所　詳細名簿による

⑯くつずりマット

材種　XX合化ビニル製または ゴム製（受枠：ステンレス製）
・硬質アルミニウム製（受枠：硬質アルミニウム製）　・ステンレス製（受枠：ステンレス製）

17.鏡類

材種　XXアルミニウム合金製　・（　　）
取付　◎テーパー式　・段一断面
形式　・ロープ式　◎ロンドル式
寸法　（　5m　）
製造所　XXサンポール（ランポール）、昭和ホール床（ショーワアルミホール）
住友電金属工業KK（アルポール）

23 コンクリート及びモルタルその他工事

18.板ぎお受金物

材種　XXステンレス製（市販品）（　　結）・（　　）

⑲ステンレス流し台

XX市販品　・既製品　XX種シンク　トラップ付
製造所　クリナップKK（きくらVXシリーズ）、サンウェーブ工業KK（キッチンKC）、ナスステンレスKK（ニューチャーミー）

⑳コンロ台

XX市販品　・既製品　バックガード（XX有　・無）
製造所　クリナップKK（きくらVXシリーズ）、サンウェーブ工業KK（キッチンKC）、ナスステンレスKK（ニューチャーミー）

㉑吊戸棚

XX市販品　・既製品
製造所　クリナップKK（きくらVXシリーズ）、サンウェーブ工業KK（キッチンKC）、ナスステンレスKK（ニューチャーミー）

㉒水切棚

XX既製品ステンレス製一般型　・（　　）

㉓携帯障害者用誘導床材

施工箇所	材質	寸法	備考
玄関ホール	◎磁器製又は甘ぎ磁製	◎300角・（　）	黄ゆう・黄色
廊下階段	◎ビニル床タイル	◎300角	黄色
洗面所	◎点字器(ウルトラ・パル)XX		黄ゆう製
	・コンクリート製	・300角　厚40	黄色
玄関ポーチ	◎しっが製	◎230×114	黄色

製造所　(財)安全交通試験研究センター（日本ハーモニー工業KK、ユニボンKK
但し、磁器製は、磁器タイル製造所、しっが製は、しっが製造所とする
製造所（製品名）

24.既製フェンス

25.焼却炉

製造所（製品名）

26.敷地排水槽

種別　・A種（高さ2m　程度）　XX B種
・金属製（黄ちゅう製公角　アンカー共）
・製造所：XXカクマル、　XXコノエ製造

別表－1　設備工事との工事区分表

●印は本工事範囲とする

工事内容			本工事	電気設備工事	衛生設備工事
電気設備	配電盤・制御盤の基礎	屋内		○	
		屋外		○	
		屋上	○		
	自家発電機の基礎（アンカーボルトを除く）		○		
	テレビアンテナ基礎（　〃　）		○		
	諸計器の基礎（　〃　）		○		
弱電設備	屋内設置				○
	屋上設置（架台、アンカーボルトを除く）		●		
	屋外設置（　〃　）				○
	屋台・アンカーボルト		○		
	特記した基礎		○		
開口部	壁、床、梁	補強を要するもの		○	○
	異進スリーブ	補強を要しないもの		○	○
	壁、床、梁	補強を要するもの	●		
	異進部受仲	補強を要しないもの	●		
	鉄骨鉄骨下地、	補強を要するもの	●		
	型・天井ボード類の切込	補強を要しないもの（アウトレットボックス付除く）	●		
	埋込部分電管、	補強を要しないもの	○		
	鉄骨鉄筋の受仲	補強を要するもの	○		
	上記開口部の補強		●		
	上記開口部の墨出し			○	○
	スリーブの穴埋め（型仲の穴埋めを含む）			○	○
点検口	床、壁、天井		●		
外部取付ガラリ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む		●		
建築窓のコード			●		
換気扇の取付仲					○
流し台	排水トラップ孔		●		
防油堤	オイルサービスタンクの防油堤	設置先用		○	
		受け用			○
床下水槽のマンホールふた					○
屋外排水管	雨水		●		
	汚水、雑排水				○
屋水立管（たてどい）			●		
身障者用便所手すり			●		
はめ込用洗面器用カウンター（前板共）					○
ガスボンベ転倒防止用の鎖					○
電気配管配線	自動ドア及び電動シャッタなどの制御盤と操作スイッチ類の配管配線及び操作スイッチ		●		
	防災設備シリーズ			○	
	電話線				○
	配線ピット及びふた		○		
	別途機器などへの接続			○	
ガス漏れ検知器				○	
換気扇	屋外設置、自然換気型		○		
	屋内設置、強制換気型				○
電気錠	電気錠及び通電金具		●		
	TENキー及び制御盤			○	
エレベーター出入口三方枠（金属製）					○
シャワーユニット（バスユニット）					○

伊万里労基 建築工事	
特記仕様書（その2）	2
九州地方建設局営繕部 平成　年　月	42

2011/03/29
12:16:56
JST

外部仕上表

区分	床	腰	壁・柱・はり	屋根	庇 部位	庇 上端	庇 はな	庇 下端	備考
	・磁器質タイル ・モザイクタイル ・モルタル ◎ コンクリート直均し仕上げ ◎ レンガ積部	・コンクリート打放し B種 ・コンクリート打放し B種のうえ仕上塗材仕上げ ◎ 磁器質タイル50角	◎ コンクリート打放し B種のうえ透湿・撥水性塗膜 ・コンクリート打放し B種のうえ仕上塗材仕上げ ◎ 磁器質タイル50角	◎ アスファルト保護防水 押さえコンクリート直均し仕上げ ◎ アスファルト露出防水 ◎ 断熱処理亜鉛合金板葺（一文字葺）	玄関庇	合成高分子ルーフィングシート防水	アルミ赤 2.0（B−2種）	金属成形板	・壁上手すり ・クリーニングフック ・旗ざお ・旗ざお受金物 ・丸環

内部仕上表

仕上分類記号	階	室名	付属物	下地分類	床仕上げ	標準詳細分類番号	幅木仕上げ	標準詳細分類番号	巾木	壁仕上げ	標準詳細分類番号	塗装	天井仕上げ	標準詳細分類番号	塗装	壁・天井取合 標準詳細分類番号	備考
A	1	事務室 伝送機械室		C	単ビニル床タイル ・ビニル床シート ・帯電防止ビニル床タイル ◎フリーアクセスフロアの上タイルカーペット人種（ループパイル）t=6.5	・1-01-1 ◎1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		・モルタル ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5（VB目地処付）	2-02-4 2-03-9 2-03-7	EP				3-11-10	0種の部分は GB ◎12.5（VB目地処付）とする 2-03-7
				S			ビニル幅木	2-11-1		・GB ◎9.5（VB目地処付） ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5＋12.5（VB目地処付）	2-03-3 2-03-4 2-03-10	EP	下地張りGB ◎9.5 のうえ RB ◎9	3-01-5		3-11-12	◎ 遮音壁 2-23-1
B	2	倉庫 印刷室 男子更衣室		C	単ビニル床タイル ・ビニル床シート ・帯電防止ビニル床タイル	・1-01-1 ◎1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		・モルタル ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5（VB目地処付）	2-02-4 2-03-5 2-03-7	EP				3-11-9	0種の部分は GB ◎12.5（VB目地処付）とする 2-03-7
				S			ビニル幅木	2-11-1		・GB ◎9.5（VB目地処付） ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5＋12.5（VB目地処付）	2-03-3 2-03-4 2-03-10	EP	GB（T）◎9.5	3-01-2		3-11-11	
C	1	番長室		C	・ビニル床タイル 単ビニル床シート ◎タイルカーペット人種（カットパイル）t=6.0	・1-01-1 ◎1-01-4 ・1-02-9 ・1-02-9	木製幅木 H=40	◎2-11-5 ・2-11-6	CL	・モルタル ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5（じか張り工法）（VB目地処付パテ処理）	2-02-4 2-03-5	壁紙（C）				3-11-10	外壁に接する壁及び 0種の部分は GB ◎12.5（じか張り工法 VB目地処付パテ処理）とする
				S			木製幅木 H=40	◎2-11-5 ・2-11-6	CL	・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5+12.5（VB目地処付パテ処理） ・GB ◎9.5+12.5（種目処理）パテ処理	2-03-3 2-03-4 2-03-11	壁紙（C）	下地張りGB ◎9.5 のうえ RB ◎9	3-01-5		3-11-12	◎ 遮音壁 2-23-1
D				C	床用磁器タイル	1-01-6	・テラゾブロック ・モルタル	・2-11-4 ・2-11-7	VP	モルタル	2-02-4	EP				3-11-10	
				S									下地張りGB ◎9.5 のうえ RB ◎12	3-01-5			
E	1	男子便所 女子便所 身障者便所		C	モザイクタイル ◎床用磁器タイル	1-01-6 ◎1-01-4				陶器質内装タイル	2-01-9					3-11-9	
				S									◎無石綿クイカル板 ◎6 ・樹脂成形板	1-01-1	EP		
F	2	脱衣室		C	ビニル床タイル	・1-01-5 ・1-01-4	・ビニル幅木 ◎木製幅木 H=40	2-11-1 2-11-5	OP	モルタル ◎無石綿クイカル板 ◎6.0（目スカシ）	2-02-4 2-03-1	VP				3-11-9	
				S						無石綿クイカル板 ◎6.0（目スカシ）	2-03-4 2-03-10	VP	無石綿クイカル板 ◎6	1-01-1	EP		
				W	複合1種フローリング	・1-02-10 ・1-02-11 ◎1-02-12	木製幅木	6-02-1									
G	2	女子更衣室 物置室		C			木製幅木	6-02-2		・モルタル ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5（種後リエ法）（VB目地処付パテ処理）	2-03-4 2-03-5	・EP ◎壁紙（1）				6-02-2	
				S			木製幅木	6-02-3		・GB ◎9.5（押入）（VB目地処付パテ処理）	2-03-4		無GB（W）◎9.5 ・GB ◎9.5	1-01-1		6-02-3	
				W	タタミ部、複合1種フローリング	◎1-02-9 ◎1-02-10 〜13	木製幅木	6-02-1		◎GB（W）◎9.5+12.5（VB目地処付パテ処理）	2-03-11					6-02-1	
H	2			C	ビニル床タイル	・1-01-5	・ビニル幅木	・2-11-1 ・2-03-1		モルタル	2-02-4	EP	・コンクリート打放しC種 薄付仕上塗材仕上（長尺塩ビ目地入れ） ・コンクリート打放し B種	3-01-10			0種は、コンクリート打放し（B）
				C									0種は コンクリート打放し B種				
I	2	倉庫		C	・モルタル ・コンクリート直均し仕上げ ・合成樹脂塗床 ◎ビニル床タイル	・1-01-1 ・1-01-2 ◎1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		◎コンクリート打放し B種 ◎CB化粧積	2-02-1		CB目地入のうえ薄付仕上塗材仕上	3-01-11			0種は、コンクリート打放し（B）
				S													
J	2	機械室 EV機械室		C	合成樹脂床	・1-01-1 ・1-01-2 ◎1-01-3	・モルタル（厚t=1.200） ◎コンクリート打放し B種	2-02-4 2-02-1		◎グラスウール ◎25 のうえガラスクロス張 ・コンクリート打放し B種	2-03-1 2-03-1		グラスウール ◎25 のうえ ガラスクロス張	3-01-12			0種は、コンクリート打放し（B）
K	1 2	SK 電気室		C	・モルタル ・コンクリート直均し仕上げ ◎合成樹脂塗床	・1-01-1 ・1-01-2 ◎1-01-3	コンクリート打放し B種	2-02-1		◎コンクリート打放し B種 ◎CB化粧積	2-03-1		コンクリート打放し C種	3-01-11			0種は、コンクリート打放し（B）

仕上分類記号	階	室名	付属物	下地分類	床仕上げ	標準詳細分類番号	幅木仕上げ	標準詳細分類番号	巾木	壁仕上げ	標準詳細分類番号	塗装	天井仕上げ	標準詳細分類番号	塗装	壁・天井取合 標準詳細分類番号	備考
L	1	浴室 脱衣コーナー		C	◎ビニル床シート	1-01-5 1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		◎陶器質内装タイル ・GB ◎9.5（種目処理） ◎GB ◎9.5（VB目地処付）	2-01-9 2-03-9 2-03-7	EP（G）				3-11-9	
	2	浴室		S			ビニル幅木	2-11-1		・GB ◎9.5（VB目地処付） ◎GB ◎9.5+12.5（VB目地処付）	2-03-3 2-03-4	EP（G）	磁器質タイカル板 ◎6	3-01-1	EP	3-11-11	
M	1	玄関ホール 廊下		C	磁器質タイル	1-01-6	磁器質タイル（厚＝1.100）	2-01-1		GB ◎9.5（種目処理）	2-03-9	EP（G）				3-11-10	
				S									下地張りGB ◎9.5のうえ RB ◎12 リブ付 一部GB ◎9.5＋RB ◎9	3-01-5			
N	1	設定室		C	ビニル床タイル	1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		GB ◎9.5（VB目地処付）	2-03-7	EP				3-11-10	
	2	会議室 応接室		S			ビニル幅木	2-11-1		GB ◎9.5+12.5（VB目地処付）	2-03-10	EP	下地張りGB ◎9.5のうえ RB ◎9	3-01-5		3-11-12	
O	1	リフレッシュルーム		C	タイルカーペット人種（ループパイル）	1-01-4	木製幅木 H＝40	2-11-5		GB ◎9.5 直張り（VB目地処付パテ処理）		壁紙（V）				3-11-10	
				S			木製幅木 H＝40	2-11-5		GB ◎9.5+12.5（VB目地処付パテ処理）		壁紙（V）	下地張りGB ◎9.5のうえ RB ◎9	3-01-5		3-11-12	
P	2	廊下 ホール		C	ビニル床シート	1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		GB ◎9.5（VB目地処付）	2-03-1	EP（G）				3-11-10	
				S			ビニル幅木	2-11-1		GB ◎9.5+12.5（VB目地処付）	2-03-10	EP（G）	下地張りGB ◎9.5のうえ RB ◎9	3-01-5		3-11-12	
Q	1	車庫		C	コンクリート直均し仕上げ	1-01-2				コンクリート打放し（B）	2-02-1		コンクリート打放しC種	3-01-11			0部は、コンクリート打放し（B）
				S													
R	1, 2	階段室		C	ビニル床シート	1-01-4	ビニル幅木	2-11-1		モルタル	2-02-4	EP（G）				3-11-10	
				S									下地張りGB ◎9.5のうえ RB ◎9	3-01-5			
S	2	踊場		C	ビニル床タイル	1-01-4	木製幅木	2-11-5	OP	GB ◎9.5 直張り工法（VB目地処付）	2-03-1	EP				3-11-9	
				W	複合1種フローリング	1-02-12	木製幅木	6-05-1	OP	GB ◎9.5+12.5（VB目地処付）	2-03-10	EP	GB（T）◎9.5	3-01-2		3-11-11	
				S													
T				C													
				S													
U				C													
				S													
V				C													
				S													

共通事項

1 内・外部仕上表、内・外部付属物適用分類番号欄は塗印、◎印のついたものを適用する。
2 設計図中 ◯ 内は、建築工事標準詳細図の分類番号を示す。
3 内部仕上表
　イ 下地分類　C：鉄筋コンクリート下地、コンクリートブロック下地、ALC下地
　　W：木造下地
　　S：軽量鉄骨下地
　ロ 特記以外の柱・はり・下り壁の仕上げは壁仕上げによる。
　ハ 付属 のうち、警告札、誘導標識、便所表示、階表示、車点検口などは平面図による。
　ニ 付属 のうち、ブラインドボックス、カーテンレール、ブラインド、天井点検口などは天井伏図による。
4 特記以外の木部・鉄部の仕上はOP塗とする。ただし和室廻り木部は造作とします。
5 特記以外の断熱材打込みの施工範囲は、<1-01-2> による。（機械室・電気室・書庫・便所・EV機械室・車庫・EPSを除く）　ただし、屋根防水が断熱工法の場合は、屋根スラブ下面の断熱材打込みを行わない。
6 特記以外の仕上げボード部の縁目は、目隠しとし、目地塗はテープ張り又は塗装とする。
7 壁ボード出隅部は保護金物付とする。
8 軽量鉄骨天井下地で、目透し張りの場合は、野縁以外の目地あたりに目地板を入れる。
9 軽量鉄骨壁下地の開口部に配管類の指示により配線用穴あけを行う。
10 <1-01-2>、<1-01-3> 仕上げのもは、特記なき限りt=20とする。

外部付属物適用分類番号

屋上点検口　・5-21-1
屋上換気塔　・5-21-2
雨水管・排水管類屋上取金部　・5-22-1
クーリングタワー基礎・テレビアンテナ基礎　・5-22-2 ◎5-22-3
雨上手すり　・5-23-1
格といの形式　・5-31 ・（　）
ルーフドレイン　◎5-32-1 ・5-33-1
煙突　◎7-21-1
くつふきマット　・8-21-1 ◎8-21-2 ・8-21-3
くつ洗い流し　◎8-21-1 ・8-21-2
吊金物、丸型鉄鋼丸　・8-31-1 ・8-31-2 ・8-31-3 ・8-31-4
ダラップ　・8-32-1 ◎8-32-2
電話高受け金物　・8-33-1 ・8-33-2

内部付属物適用分類番号

トラフ・1-21-1・1-21-2・1-21-3・1-21-4・1-21-5・1-21-6
駆とい及形式及 ◎5-31・（　）ルーフドレイン・5-32,33
浅し上部水切り ◎6-11-3・6-11-4
便所へだて・テラゾ6-101 ・木製6-102 ◎木製6-103
設体不自由者用便所 ◎6-23-1・6-23-2・6-23-3・6-23-4
階段手すり・1-12-2 ◎7-12-3・7-12-4・7-12-5・7-12-6・7-12-7
板敷補・8-33-1
押入れ ◎8-44-1
屋内表示板・8-101
くつふきマット・8-21-1 ◎8-21-2 ・8-21-3
自動扉マット・8-22-1・8-22-2
タラップ ◎8-32-1・8-32-2
室名札・8-41-1 ◎8-41-2・8-41-3・8-41-4
ピクトグラフ・8-42-（　）
庁舎・各階案内板・8-43-1・8-43-2・8-43-3

略号

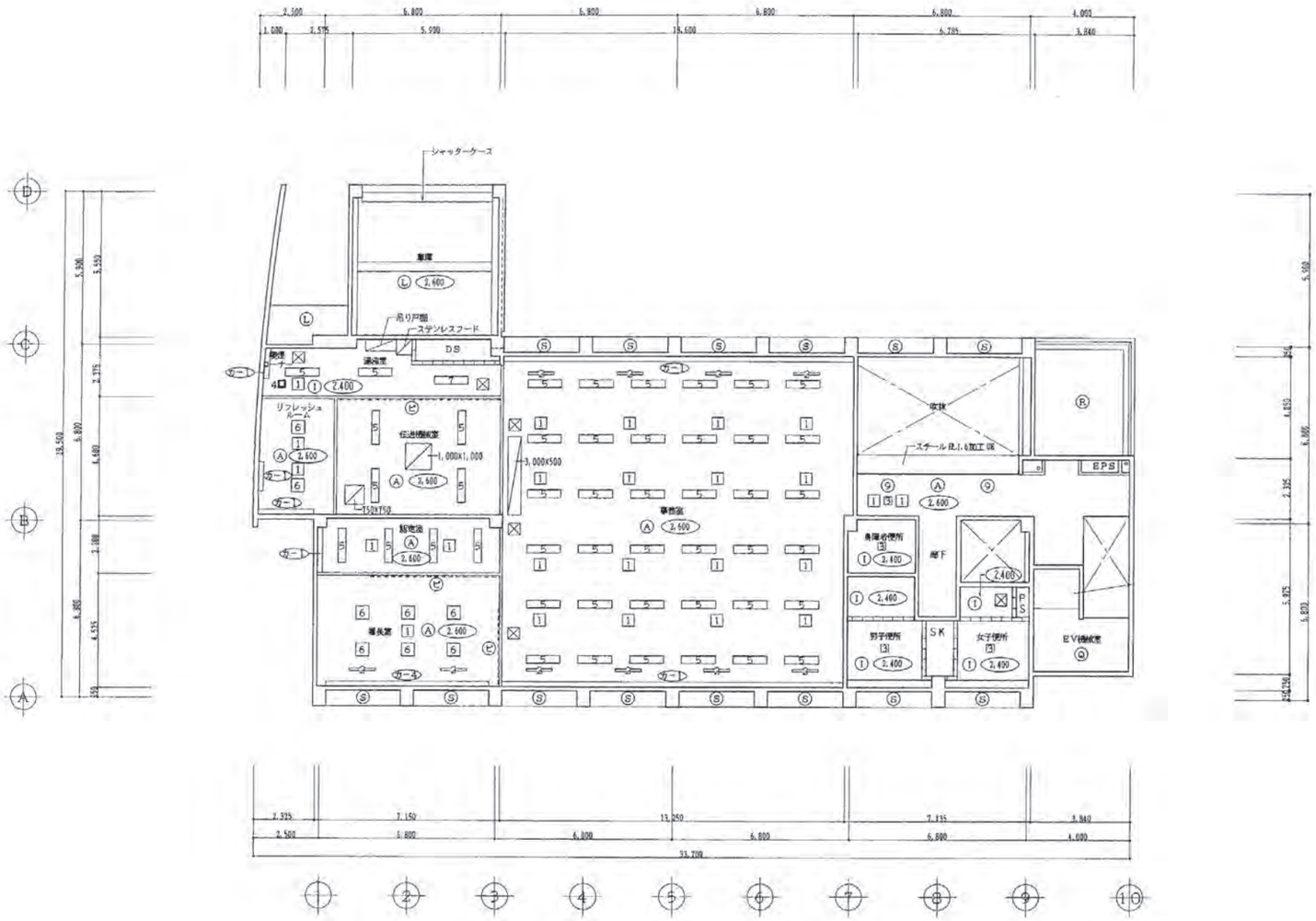
人研	人造石研出し	OP	油金ペイント塗り
GB	石こうボード	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り1種
GB（T）	化粧石こうボード（トラバーチン模様）	EP（G）	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（キラッ）
GB（W）	化粧石こうボード（木目模様）	MP	多彩模様塗材塗り
GB（P）	吸音用穴あき石こうボード	SP	薄付仕上塗材（内装合成樹脂エマルジョン系）
RB	ロックウール化粧吸音板（寸法300×600 面取なし）	CL	クリヤラッカー塗り
PF板	ポリスチレンフォーム保温板	VP	塩化ビニル樹脂エナメル塗り
CE板	木毛セメント板	AP	アクリル樹脂エナメル塗り
TB	テラゾブロック	OS	油性ステイン塗り
無石綿クイカル板	繊維混入けい酸カルシウム板	LE	ラッカーエナメル塗り
無石綿クイカル板（P）	繊維混入けい酸カルシウム板（穴あき）	OF	オイル塗りワックス拭き仕上げ
複合フローリング	複合一種フローリング	TP	合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り
SGP	配管用鋼管（B）	UV	ウレタン樹脂ワニス塗り
UE	焼付形ポリウレタン樹脂エナメル塗り	WP	複層仕上塗材
PE	フタル酸樹脂エナメル塗り	マスチック	マスチック仕材塗り
		壁紙（C）	織物壁紙
		壁紙（V）	ビニル壁紙
		壁紙（1）	無地壁紙

防火認定材料（特記なき限り、下記防火認定材料とする）

石こうボード◎12.5	不燃第1003号	繊維混入けい酸カルシウム板	準不燃第1056号
	不燃第1021号	ロックウール吸音板	不燃第1033号
石こうボード◎9.5	準不燃第2019号	木毛セメント板	準不燃第2011号
	準不燃第2027号	ロックウール吹付け	不燃第1032号
化粧石こうボード◎9.5 GB(T)	不燃第1004号	軽量骨材吹付（セメント系・石膏材系）	基材同等第0003号
化粧石こうボード◎9.5 GB(W)	準不燃第2016号	軽量骨材吹付（合成樹脂エマルジョン系）	基材同等第0004号
石膏スレート板（石綿セメント板）	不燃第1001号		
繊維混入けい酸カルシウム板（不燃性ボード地色無不燃材打地）		建築	第0002号
ビニル壁紙 防火検定1級（準不燃材下地）		建築	第0003号
難燃壁紙 防火検定1級（不燃材及び準不燃材下地）		建築	第0005号

伊万里労基　建築工事	3
外部・内部仕上表	
九州地方建設局営繕部 平成　年　月	42

2011/03/29
12:17:26
JST



1階天井伏図　S:1/100

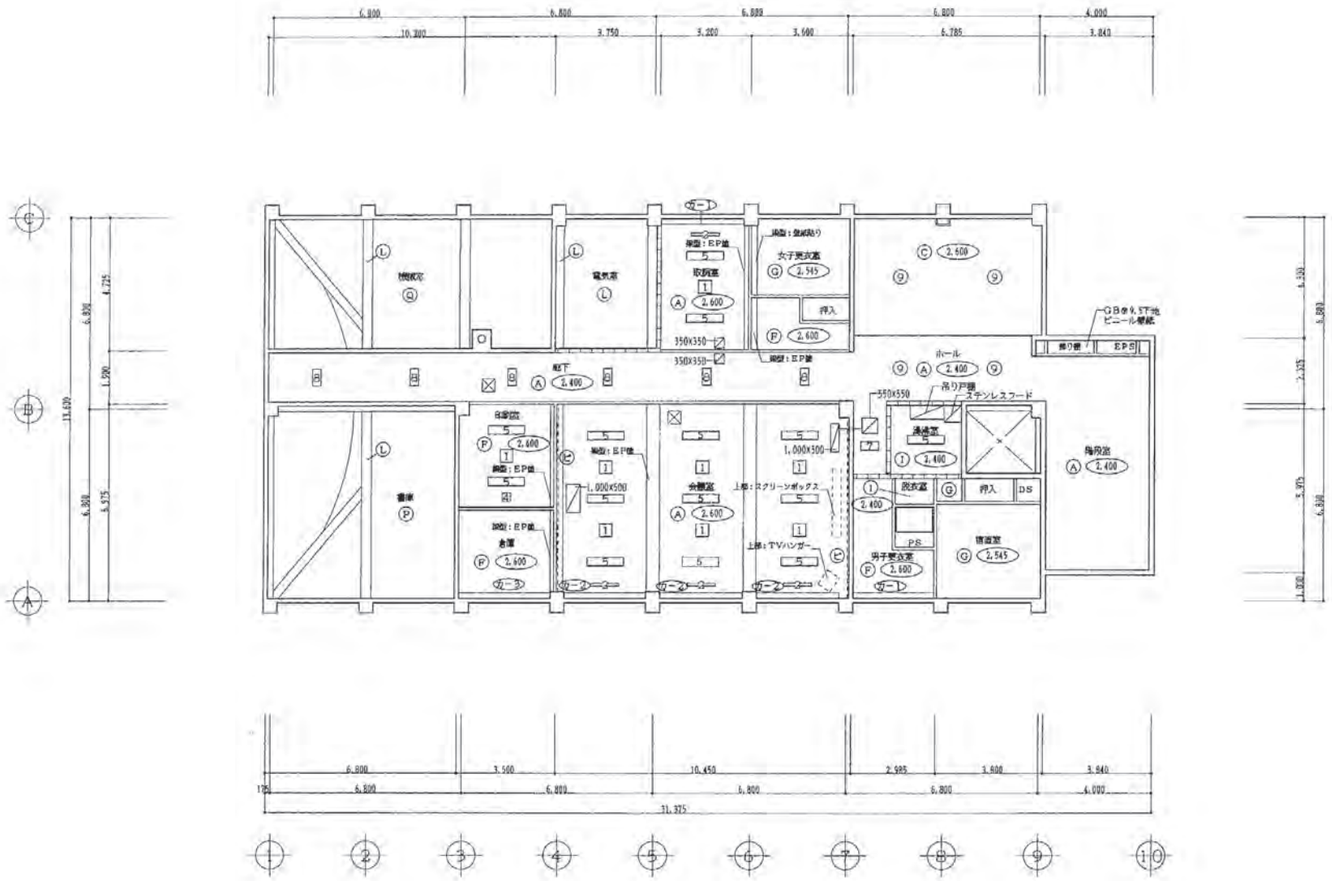
凡例			
記号	開口寸法		1階
1	開口補強	450 x 450	24
2	開口補強	1,000 x 100	10
3	開口補強	300 x 300	4
四	開口補強	250 x 250	1
5	開口補強	1,300 x 300	46
6	開口補強	500 x 500	8
7	開口補強	640 x 300	1
8	開口補強	600 x 300	—
9	開口補強	500φ	2
	開口補強	図示	—
	天井点検口	450 x 450	6

凡例													
	Ⓐ	下地張りGB@9.5のうえRB@9	Ⓕ	GB(T)@9.5	Ⓚ	機器成形板	Ⓟ	CB板打込みのうえ薄付仕上塗材	カー1	カーテンボックス W120×H150+Ⓣ(3-31-5,6)	Ⓣ	ブラインド	伊万里労基　建築工事
	Ⓑ	下地張りGB@9.5のうえRB@12	Ⓖ	GB(W)@9.5	Ⓛ	コンクリート打放しC種（梁型はB種）	Ⓠ	グラスウール@25のうえガラスクロス張り	カー2	カーテンボックス W180×H150+Ⓣ+Ⓤ(3-31-5,6)	Ⓤ	ケースメント	1階天井伏図　S:1/100
	Ⓒ	下地張りGB@9.5のうえRB@12：立体模様型	Ⓗ	GB@9.5 EP	Ⓜ	コンクリート打放しC種のうえ機能塗料仕上塗材（砂付）	Ⓡ	アルミスパンドレル@1.0	カー3	カーテンボックス W120×H150+Ⓣ(3-31-5,6)	Ⓥ	遮光カーテン	九州地方建設局営繕部
	Ⓓ	下地張りGB@12.5のうえRB@9	Ⓘ	無石綿ケイカル板@6 EP	Ⓝ	コンクリート打放しC種のうえ薄付仕上塗材（梁型はコンクリート打放しB種）	Ⓢ	コンクリート打放し（B）の上 透過・撥水性塗装	カー4	カーテンボックス W180×H150+Ⓣ+Ⓛ(3-31-5,6)	Ⓛ	レース	平成　年　月
	Ⓔ	下地張りGB@12.5のうえRB@12：立体模様型	Ⓙ	金属成形板	Ⓞ	CB板打込み	Ⓤ	ピクチャーレール（移動フックB・2*%）					

18
62

H10HA07－199

2011/03/29
12:17:28
JST



2階天井伏図　S:1/100

凡例		
記号	開口寸法	2階
1	開口補強　450 × 450	8
2	開口補強　1,000 × 100	4
3	開口補強　800 × 100	—
4	開口補強　250 × 250	1
5	開口補強　1,300 × 300	14
6	開口補強　500 × 500	—
7	開口補強　640 × 300	1
8	開口補強　600 × 300	6
9	開口補強　500φ	4
	開口補強　図示	—
	天井点検口　450 × 450	2
スクリーンボックス	KK. OSスクリーン(AL.X 240 アルミポキャス)+金上スクリーンW2. 100×H1. 800	
テレビハンガー	ﾉｸﾀ. KK (BB-TH29F1 29型用)	

凡例

Ⓐ	下地張りGB@9.5のうえRB@9	Ⓕ	GB (T) @9.5	Ⓚ	樹脂成形板	Ⓟ	CB板打込みのうえ薄付仕上塗材	カー1	カーテンボックスW120×H150+㋐(3-31-5,6)	㋐	ブラインド
Ⓑ	下地張りGB@9.5のうえRB@12	Ⓖ	GB (W) @9.5	Ⓛ	コンクリート打放し C種（線型はB種）	Ⓠ	グラスウール@25のうえガラスクロス張り	カー2	カーテンボックスW180×H150+㋐+㋓(3-31-5,6)	㋑	ケースメント
Ⓒ	下地張りGB@9.5のうえRB@12：立体構造型	Ⓗ	GB@9.5EP	Ⓜ	コンクリート打放しC種のうえ樹脂塗料仕上塗材（塗料付）	Ⓡ	アルミスパンドレル	カー3	カーテンボックスW120×H150　(3-31-5,6)	㋒	遮光カーテン
Ⓓ	下地張りGB@12のうえRB@9	Ⓘ	無石綿ケイカル板@6.5EP	Ⓝ	コンクリート打放しC種のうえ薄付仕上塗材（樹脂コンクリート打放し調）	Ⓢ	コンクリート打放し（B）の上　透湿・撥水性塗料	カー4	カーテンボックスW180×H150+㋐+㋑(3-31-5,6)	㋓	レース
Ⓔ	下地張りGB@12.5のうえRB@12：立体構造型	Ⓙ	金属成形板	Ⓞ	CB板打込み	Ⓣ	ピクチャーレール（移動フックB・2"5/8）				

伊万里労基　建築工事		16
2階天井伏図	S:1/100	
九州地方建設局営繕部		42
平成　年　月		

H10HA07－200

2011/03/29
12:17:43
JST

構造関係共通事項

特記仕様書、建築工事共通仕様書（平成9年版、以下「共仕」という）及び図面に記載なき事項は下記による。

1 共通事項

(1) 鼻上筋柱脚付立筋が図内で定着長しがとれない場合は柱頭の柱主筋先端にフックをつける。
(2) 特記なき外壁はW15R、内壁はW12とする。
型し外壁が打ち放し仕上げの場合、外部にコンクリート埋打ち@20（柱、梁共）を行う。
(3) たれ壁、腰壁の位置は意匠図による。
(4) EW、EKWは耐震壁又は土圧を受ける壁を示す。
(5) 外壁に開口がある場合の配筋は、「共仕」5.7.2(ホ)の開口部補強を行うと共に下記の要領で配筋する。
a) L0≧0.5Lの場合、開口部上下を、腰壁袖れ壁配筋とし補筋は引き通す。ここに、Lはスパンの内法寸法、L0は開口長さ（複数の場合は合計）とする。型し腰壁袖れ壁配筋は下記による。

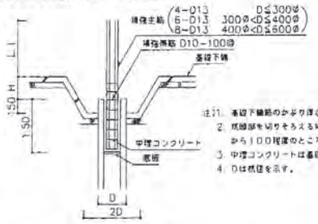
外部に面する腰壁及び袖れ壁の基準配筋

コンクリート厚さ(mm)	方向	配筋	先端補強筋
120	縦	D10−200@ シングル	2−D13
	横	D10−100@ シングル	
150	縦	D10−100@ シングル	
	横	D10−100@ シングル	
180・200	縦	D10−200@ ダブル	4−D13
	横	D10−150@ ダブル	

b) 開口部と開口部が接近している幅1m以下の壁の縦筋のピッチは基準配筋のピッチの1/2とする。
ただし75@未満となる場合は75@とする。
(6) 柱部分の縦筋のかぶり厚さは、土に接しているかどうかにより異なり、かぶり厚さの調整のために縦筋を折り曲げることのないように、地中部分で10mm埋打ちとする。この場合埋打ちの深さはかぶり厚に達しるものとする。
(7) 土間コンクリートは特記なき限り厚さ120とし、配筋は縦横D10−250@シングルとする。
(8) 床版の厚さは特記なき限り @130とする。
(9) 目地にシーリングがある場合の最小かぶり厚さは表5.3.6の「仕上げなし」の項による。

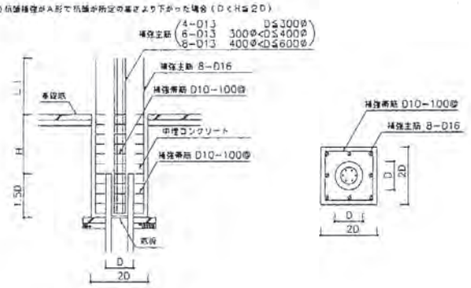
2 既製コンクリート杭の杭頭処理要領

(1) 杭頭補強がA形で杭頭が所定の高さより下がった場合（H<D）

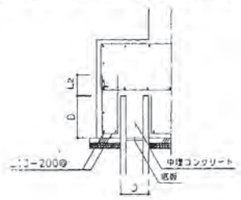


注)1. 基礎下端筋のかぶり厚さはくい天端から確保する。
2. 底版部を切りそろえる場合、杭の軸方向筋は杭天端から100程度のところで切断する。
3. 中埋コンクリートは基礎のコンクリートと同強度とする。
4. Dは杭径を示す。

(2) 杭頭補強がA形で杭頭が所定の高さより下がった場合（D<H≦2D）



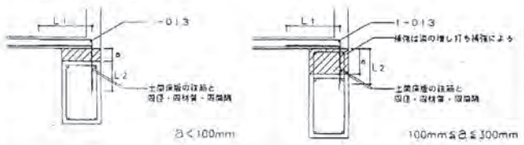
(3) 杭頭補強がA形で杭頭が所定の高さより上がった場合
PHC杭B、C種で杭頭を切断した場合の補強は下記による。A種についてはA形（「共仕」図5.4.1）とする。



3. 梁の埋打ち補強

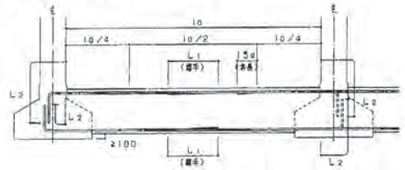
a) 梁上筋、下筋の埋打ちが梁中で終わる場合　　b) 梁側面の埋打ちが梁中で終わる場合

4. 片側土間床版の打継ぎ補強



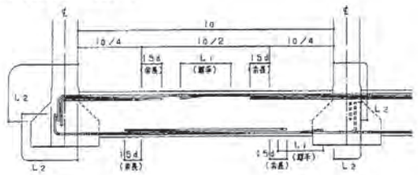
5. 基礎梁主筋の継手及び定着

(a) 基礎梁に床版がつかない地位基礎の場合



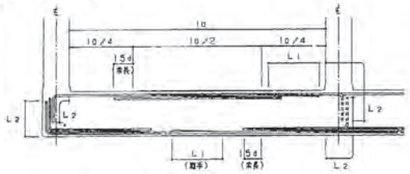
(注) 1. 図示のない事項は、共仕による。
2. ━━ 印は、継手及び定着長位置を示す。
3. 単位は、仕向定規の場合を示す。

b) 基礎梁に床版がつく地位基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、共仕による。
2. ━━ 印は、継手及び定着長位置を示す。
3. 単位は、仕向定規の場合を示す。

c) 連続基礎及びべた基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、共仕による。
2. ━━ 印は、継手及び定着長位置を示す。
3. 単位は、仕向定規の場合を示す。

6. 地中梁、基礎の地業

ⓐ地中梁地業	均しコンクリート @60	砂利地業	なし
・底盤基礎地業	均しコンクリート @60	砂利地業	@60
ⓑ直接基礎地業	均しコンクリート @60	砂利地業	地盤による。
・耐圧版地業	均しコンクリート @60	砂利地業	なし
・土間床版	均しコンクリート @60	砂利地業	@60
ⓒ土間コンクリート	均しコンクリート なし	砂利地業	@60

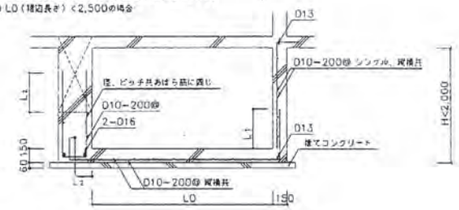
7 壁リスト

種別	断面図	縦筋及び横筋	符号	開口補強 タテ筋	横筋	ナナメ筋
W12	120	D10−200@ シングル				
W12A EW12A	120	D10−150@ シングル				
W12B EW12B	120	D10−100@ シングル				
W15A EW15A	150	D10−150@ シングル	ⓐ ⓑ	2−D13 1−D13	4−D16 3−D16	— —
W15B EW15B	150	D10−100@ シングル	ⓐ ⓑ	3−D13 2−D13	3−D16 3−D16	— —
W18A EW18A	180	D10−200@ ダブル				
W18B EW18B	180	D10−150@ ダブル				
W20A EW20A	200	D10−200@ ダブル				
W20B EW20B	200	D10−150@ ダブル	ⓐ	2−D13	2−D13	1−D13
KW1A EKW1A	180	縦筋 D13−200@ ダブル 横筋 D10−200@ ダブル	ⓐ	2−D16	2−D16	1−D13
KW1B EKW1B	180	縦筋 D13−200@ ダブル 横筋 D10−150@ ダブル				
KW2A EKW2A	200	縦筋 D13−150@ ダブル 横筋 D10−200@ ダブル				
KW2B EKW2B	200	縦筋 D13−150@ ダブル 横筋 D10−150@ ダブル	ⓐ	2−D16	2−D16	2−D13
W25		縦 33筋 D13−200@ ダブル				

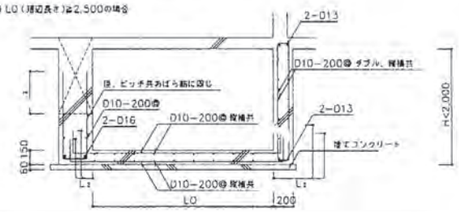
8. 端起筋

(1) ピッチ
形状は意匠図による。特記なき場合、配筋は下記に準じる。

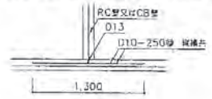
a) L0（補助長さ）<2,500の場合



b) L0（補助長さ）≧2,500の場合



(2) 1階のRC壁及びCB壁の下に地中梁、小梁がない場合、土間コンクリートに下記の補強を行う。



記号凡例

床筋配筋種別　　[ ] 床版の厚さ　　床版の開口　　梁の上端埋打ち
電灯配筋種別　　( ) 一般コンクリート　　柱の位置　　梁の下端埋打ち
土間コンクリート　　天端からのとり下り　　試験柱の位置　　梁の側面埋打ち
試験柱の位置

・鉄筋

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	•	×	⊘	●	○	⊙	⊗	◎

・溶接金網

記号	径	記号	径	記号	径	記号	径	記号	径
⊖	50	⊀	125	⊥	200	⊛	275	⊕	350
⊘	75	⊕	150	⊀	225	⊥	300	⊕	375
⊥	100	⊛	175	⊕	250	⊥	325	⊥	400

9. ボーリング柱状図

(1) ボーリング　No. 1

標高 (m)	深度 (m)	土質	色調	密度	記事	N値 10 20 30 40 50 60
37.77	1.00	埋土				60/2
	1.02	砂岩				

(2) ボーリング　No. 2

標高 (m)	深度 (m)	土質	色調	密度	記事	N値 10 20 30 40 50 60

伊万里労基 建築工事	22
構造関係共通事項	
九州地方建設局営繕部 平成　年　月	縮尺

H10HA07−206

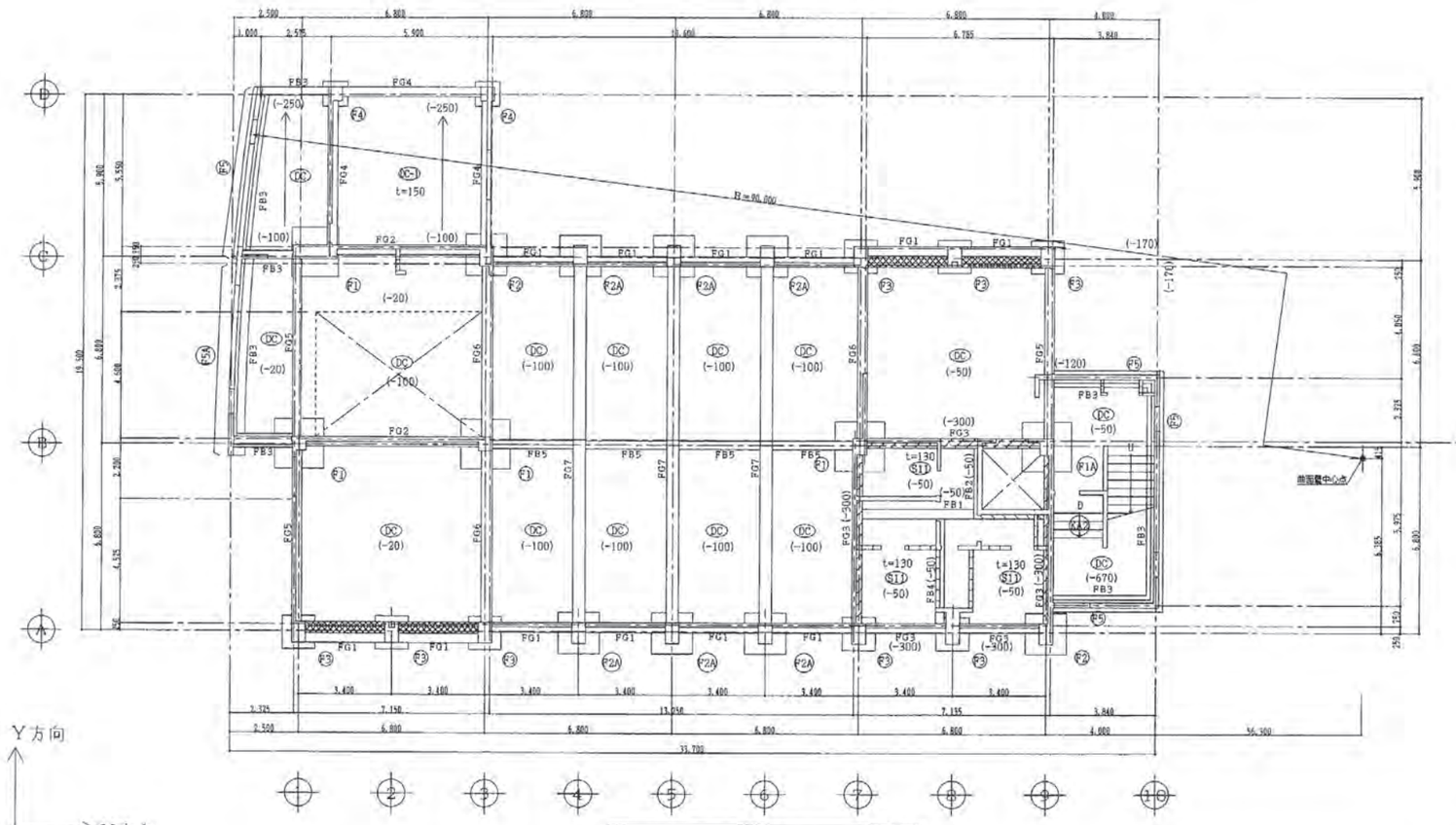
2011/03/29
12:17:45
JST

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	FG7	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央
寸法	350 x 700	350 x 900	350 x 1100	350 x 700	350 x 900	350 x 900	450 x 900	
上端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22
断面								
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22
あばら筋	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@150	
腰筋	2-D10	4-D10	6-D10	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	
備考								

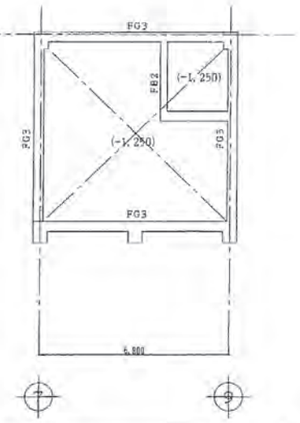
符号	FB1		FB2	FB3	FB4		FB5	
位置	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央
寸法	350 x 650		250 x 1,350	300 x 600	300 x 550		300 x 500	
上端筋	4-D22	3-D22	2-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19
断面				100 40				
下端筋	3-D22	6-D22	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
あばら筋	□-D13-@150		□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@200	
腰筋	2-D10		6-D10	2-D10				
備考								

符号	B1		B2		B3	B3A	B4		B5		B6	
位置	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	端部	中央
寸法	350 x 650		350 x 600		250 x 400	250 x 2,200	300 x 550		350 x 600		350 x 600	
上端筋	4-D22	3-D22	3-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22
断面												
下端筋	3-D22	6-D22	3-D19	6-D19	2-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D22	6-D22	3-D22	4-D22
あばら筋	□-D13-@150		□-D10-@200		□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@150		□-D10-@200	
腰筋	2-D10		2-D10			12-D10			2-D10		2-D10	
備考												

符号	B7	B8
位置	全断面	全断面
寸法	180x650	200x650
上端筋	2-D13	2-D13
断面		
下端筋	2-D13	2-D13
あばら筋	□-D13-@200	□-D13-@150
腰筋	4-D10	4-D10
備考		



地中梁及び基礎伏図　S:1/100



ピット伏図　S:1/100

構造関係共通事項8.(1),(b)に従う。

特記事項

- 特記なき地中梁天端はF.L−400とする。
- 特記なき土間コンクリート床天端はF.L−100とし,床の厚さは120とする。
- t=は床版の厚さを示す。
- ( )内の数値は梁及び床のF.Lからの上がり下がりを示す。
- は梁上端増打を示す。
- は梁下端増打を示す。
- は梁側面増打を示す。
- はコンクリートブロック造壁を示す。
- は床筋配筋種別を示す。
- は土間コンクリート床を示す。 t=120
- ピット上部を除き土間コンクリートとする。 打継ぎ補強は、共に5.8.3(a)による。
- は D10−250@ダブル
- はスラブに段差のある場合を示す。

伊万里労基　建築工事		23
地中梁及び基礎伏図	S:1/100	
九州地方建設局営繕部 平成　年　月		42

H10HA07−207

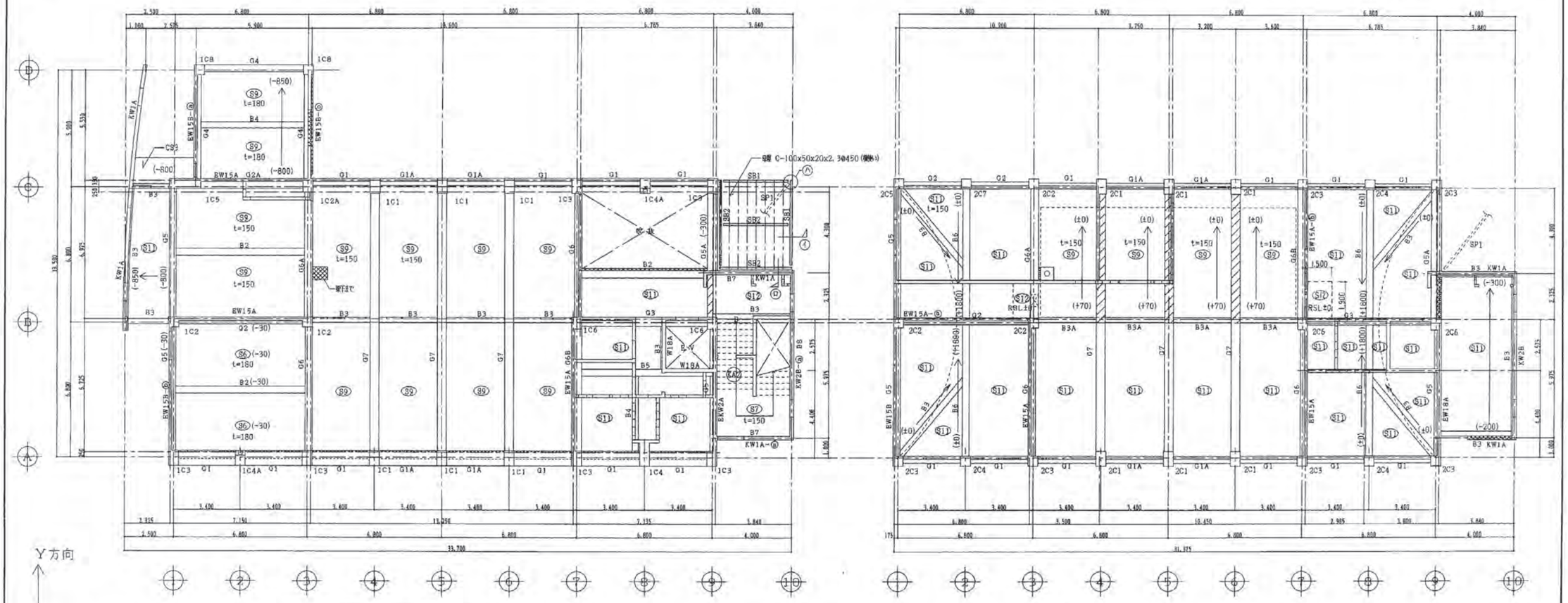
2011/03/29
12:17:48
JST

符号	2C1	2C2	2C3	2C4	2C5	2C6	2C7
寸法	500 x 750	500 x 500	500 x 500	500 x 450	500 x 500	500 x 600	500 x 450
主筋	12-D25	8-D22	8-D22	8-D22	8-D22	16-D22	8-D22
断面	変ね筋 D10-@1000 △外壁側						
帯筋	□-D13-@100	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
鉄骨Y	Ⓗ-450x200x9x14						
備考							

符号	1C1	1C2(1C2A)	1C3	1C4(1C4A)	1C5	1C6	1C8
寸法	500 x 750	500 x 500	500 x 750	500 x 750	1,600 x 500	500 x 600	500 x 500
主筋	12-D25	8-D22	12-D22	12-D22	16-D22	16-D22	8-D22
断面	変ね筋 D10-@1000 △外壁側	(500 x 750)		(500 x 500)			
帯筋	□-D13-@100	□-D10-@100	⊟-D10-@100	⊟-D10-@100	⊟-D10-@100	⊟-D10-@100	□-D10-@100
鉄骨Y	Ⓗ-450x200x9x14						
備考							

符号	RG1(RG1A)	RG2	RG3		RG5(RG5A)	RG6(RG6B)		RG6A			RG7		2G1	2G1A	2G2(2G2A)
位置	全断面	全断面	端部	中央	全断面	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	全断面	全断面	全断面
寸法	300 x 500	350 x 700	350 x 700		350 x 700	350 x 700		400 x 700			450 x 900		350 x 500	350 x 500	350 x 700
上端筋	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	7-D22	3-D22	4-D22	4-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22
断面					(300 x 700)	(500 x 700)									(500 x 950)
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22
あばら筋	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@200	□-D10-@200(D13@150)		□-D10-@150			□-D10-@200		□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200
腰筋		2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10			4-D10				2-D10
鉄骨	[-100x50x5x7.5)										Ⓗ-600x200x11x17			[-100x50x5x7.5	

符号	2G3		2G4	2G5(2G5A)		2G6		2G6A			2G6B		2G7	
位置	端部	中央	全断面	端部	中央	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	端部	中央
寸法	400 x 800		350 x 600	350 x 700		350 x 700		400 x 700			500 x 700		450 x 900	
上端筋	6-D25	4-D25	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	7-D22	3-D22	5-D22	4-D22	3-D22	4-D22	2-D22
断面				(300 x 700)										
下端筋	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22	2-D22
あばら筋	□-D13-@150		□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@150			□-D13-@150		□-D10-@200	
腰筋	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		4-D10	
鉄骨													Ⓗ-600x200x11x17	



1階柱壁2階梁床伏図 S:1/100

2階柱壁R階梁床伏図 S:1/100

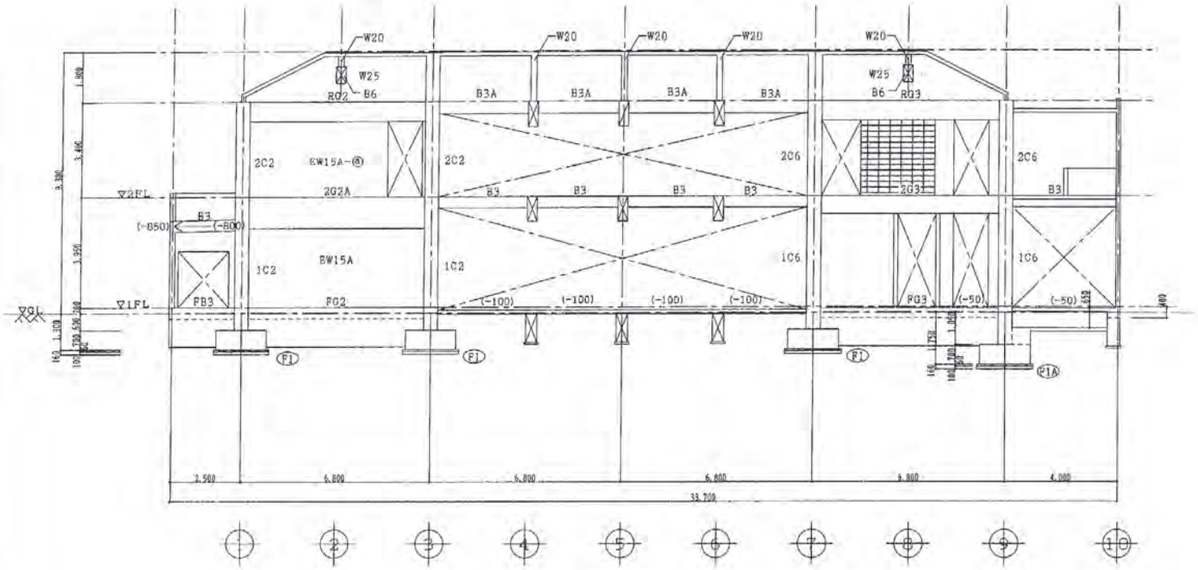
特記事項

- 特記なき2階の大梁・小梁の天端位置は F.L−20とする。
- 特記なき2階の床の天端位置は F.L−20とし、床の厚さは130とする。
- t=は床版の厚さを示す。
- ( ) 内の数値は梁及び床の F.L からの上がり下がりを示す。
- ▨ は梁上端増打を示す。
- ▧ は梁下端増打を示す。
- ▩ は梁側面増打を示す。
- ▭ はコンクリートブロック造壁を示す。
- ◯ は床版配筋種別を示す。
- 特記なき外壁はW15Bを示す。
- 特記なき内壁はW12を示す。
- 特記なき屋根の厚さは150とする。
- 柱・大梁の ○印はSM490を示す。
- 特記なきR階の大梁の天端位置は R.F.L±0とする。
- 屋根スラブの天端位置は輪郭図に従う。
- 屋根スラブのスランプは12cmとする。

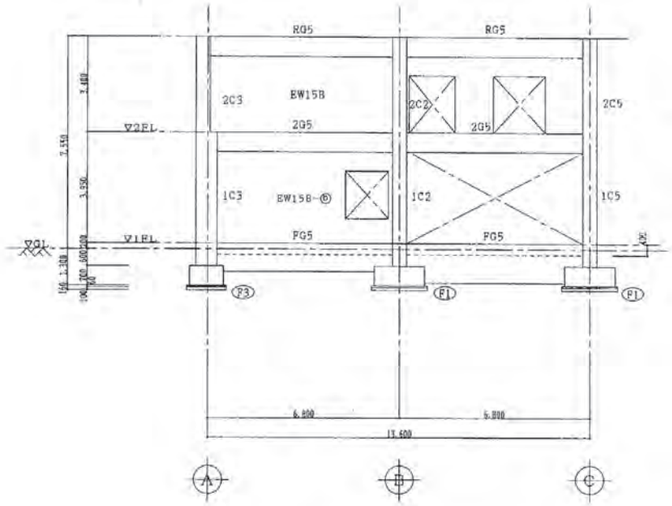
伊万里労基 建築工事		24
1階柱壁2階梁床伏図 2階柱壁R階梁床伏図	S:1/100	
九州地方建設局営繕部 平成 年 月		42

H10HA07−208

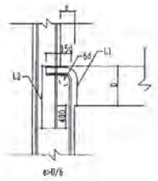
2011/03/29
12:17:50
JST



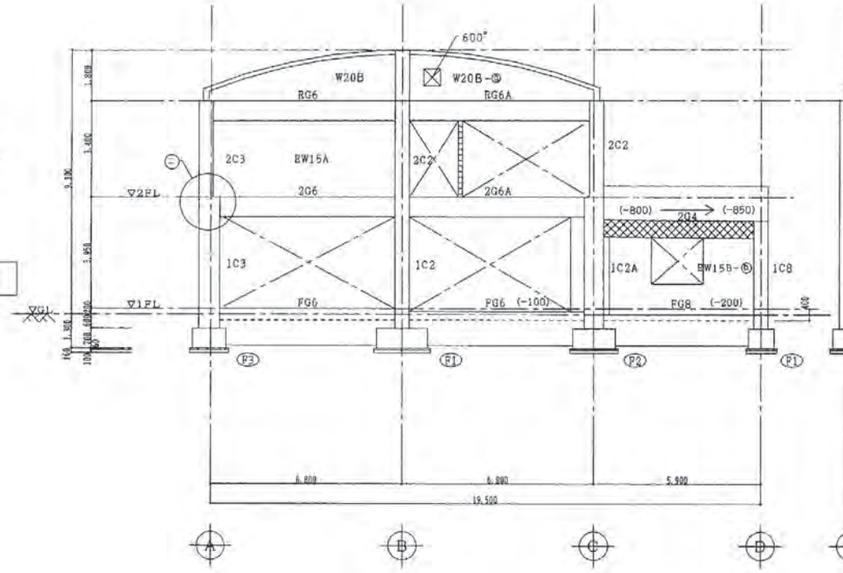
B通り軸組図　S:1/100



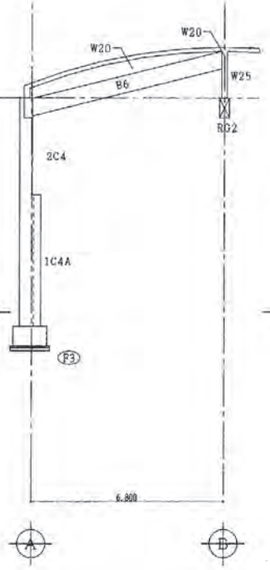
1通り軸組図 S:1/100



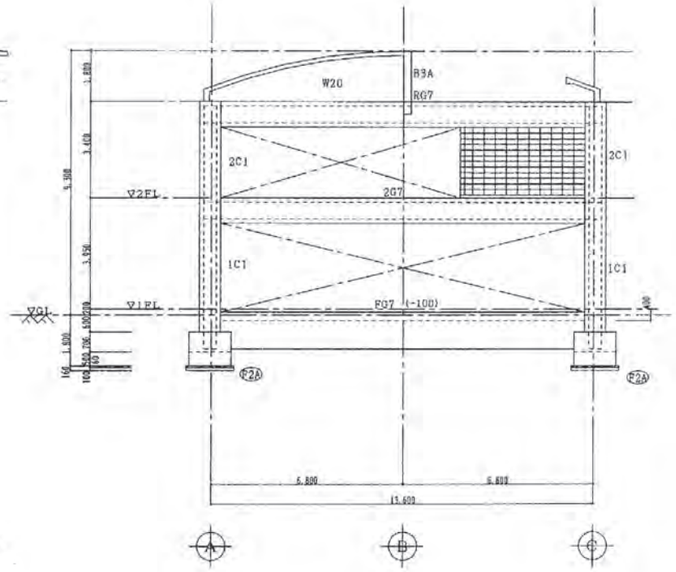
二部分　鉄筋定着要領図



3通り軸組図 S:1/100

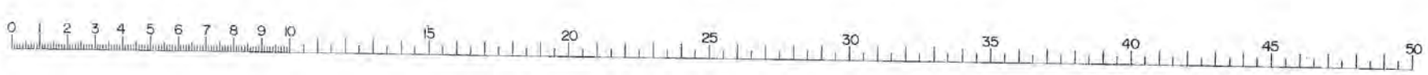


2通り略軸組図:1/100



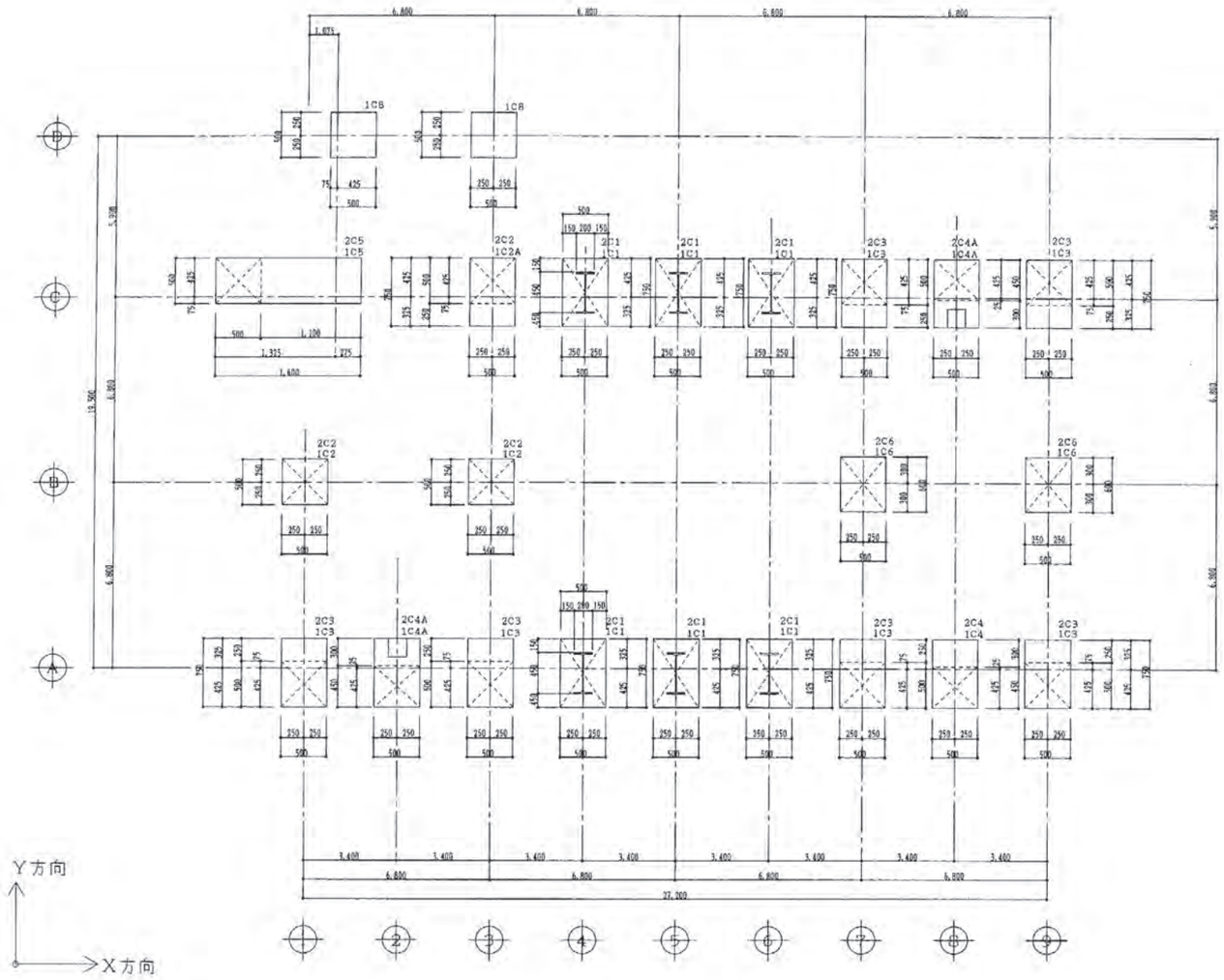
5通り軸組図 S:1/100

特記事項	◦特記なき大梁・小梁天端位置はF.L−20とする。	◦特記なき地中梁天端はF.L−400とする。	◦特記なき外壁はW15Bを示す。			伊万里労基　建築工事	25
	◦特記なき床の天端位置はF.L−20とし、床の厚さは130とする。	◦特記なき土間コンクリート床天端はF.L−100とし、床の厚さは120とする。	◦特記なき内壁はW12を示す。			軸組図　S:1/100	
	◦特記なき庇根の厚さは150とする。	t−は床版の厚さを示す。				九州地方建設局営繕部	42
	◦ ▨ は梁断面増打を示す。	◦（　）内の数値は段及び床のF.Lからの上がり下がりを示す。				平成　年　月	



H10HA07−209

2011/03/29
12:17:53
JST

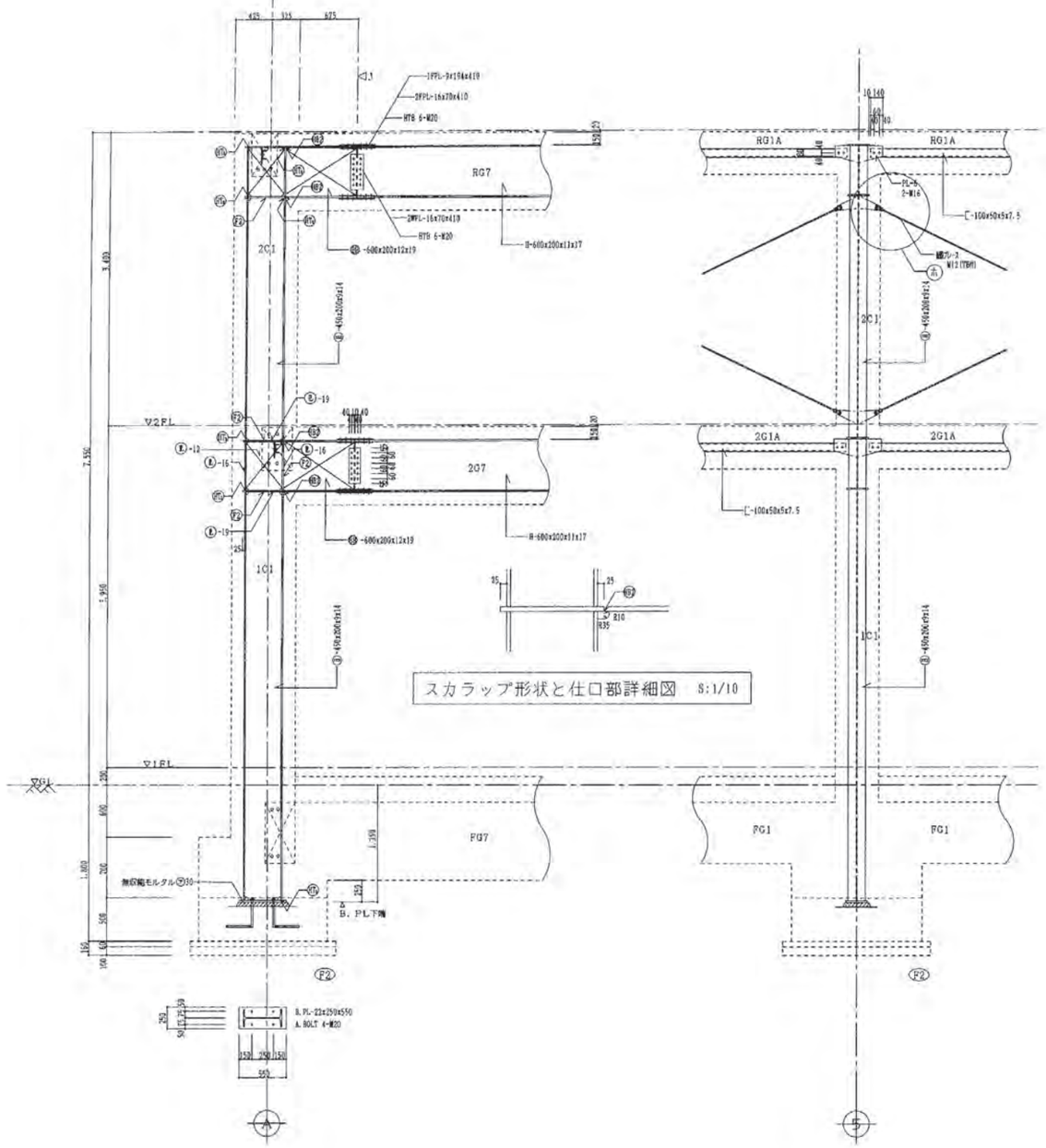


柱芯線図　S:1/30,100

特記事項					伊万里労基　建築工事	
					柱芯線図　S:1/30,100	2
					九州地方建設局営繕部　平成　年　月	

H10HA07－210

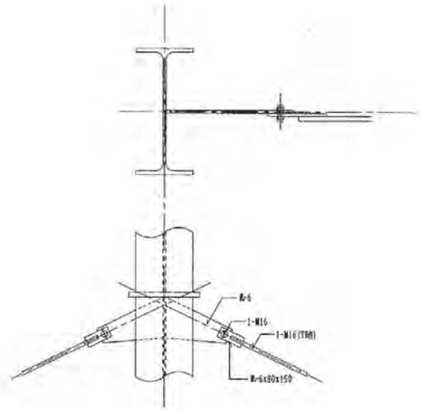
2011/03/29
12:17:55
JST



スカラップ形状と仕口部詳細図　S:1/10

3通り架構詳細図　S:1/30

A通り架構詳細図　S:1/30



ホ部　拡大図　S:1/10

鉄骨の製作所は「溶接作業判定基準」に適合する製作を行う製作工場または建設省告示第1103号に基づき建設大臣が認定した製作工場のうち、下記の条件を満足する製作工場とする。

イ）	契約電力		（180）kW以上
ロ）	建築士	1級（－）名以上	2級（2）名以上
ハ）	WES8103	1級（－）名以上	2級（2）名以上
ニ）	NDI　UT	資格（－）名以上	Ⅱ種（1）名以上
ホ）	万能試験機		50t以上（－）台以上
ヘ）	超音波探傷機又は放射線透過試験装置		（1）台以上

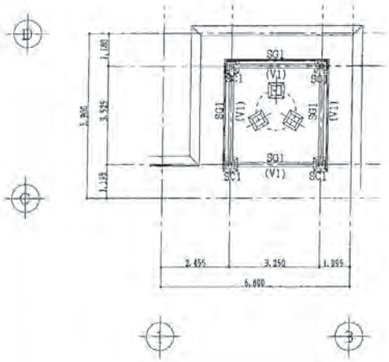
契約電力が表の80%以上あり、省エネ等の合理的な理由があるときは可。

特記事項	
	※特記なき地中梁天端はF.L－400とする。
	※特記なき大梁・小梁天端位置はF.L－20とする。

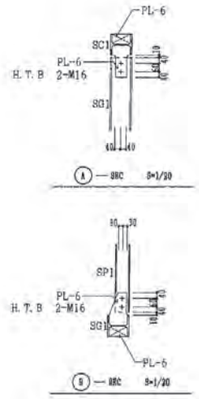
伊万里労基　建築工事	27
架構詳細図　S：1／10,30	
九州地方建設局営繕部　平成　年　月	42

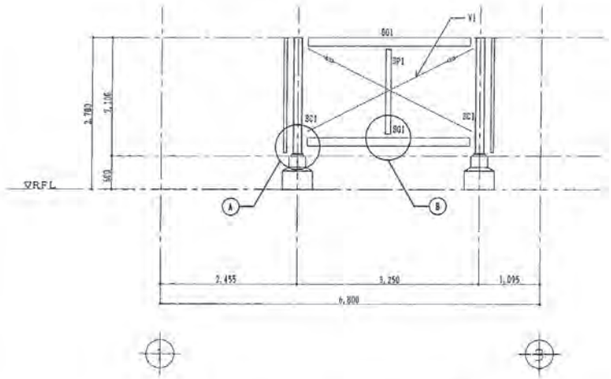
H10HA07－211

2011/03/29
12:17:58
JST

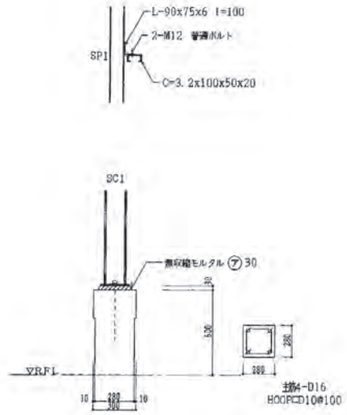


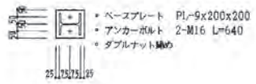
鉄骨伏図　S:1/100

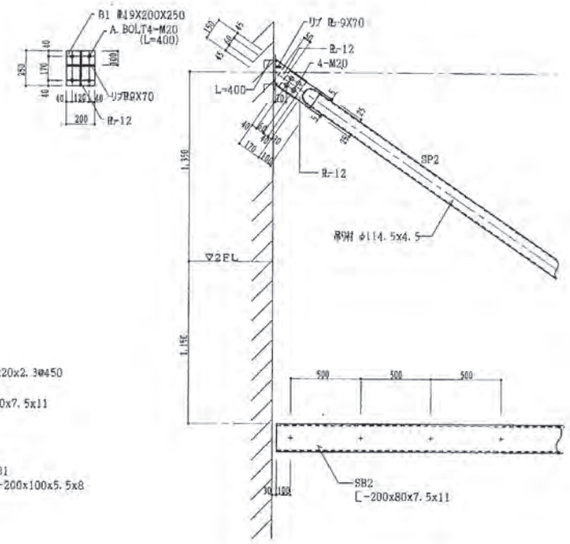




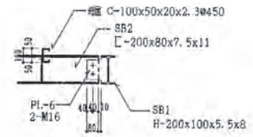
軸組図　S:1/50

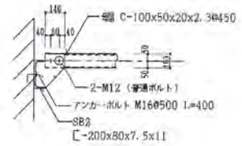




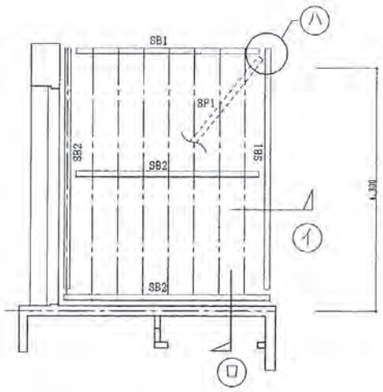


庇部 ㋑ SEC　S:1/20

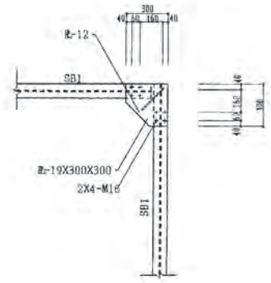




庇部 ㋺ SEC　S:1/20



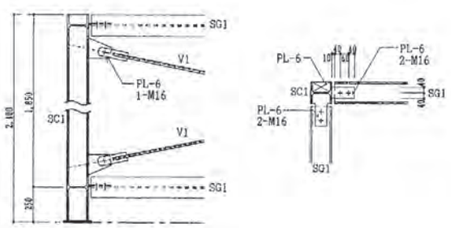
庇部　梁伏図　S:1/20



庇部 ㋩ SEC　S:1/20

鉄骨部材リスト

符号	断面	備考
SC1	H-150x150x7x10	
SG1	H-150x150x7x10	
SP1	H-100x50x5x7	
――	C=3.2x100x50x20	
V1	1-M16	クーンバックル付き
SB1	H-200x100x5.5x8	
SB2	C-200x80x7.5x11	
SB3	φ-114.5x4.5	



鉄骨詳細図　S:1/20

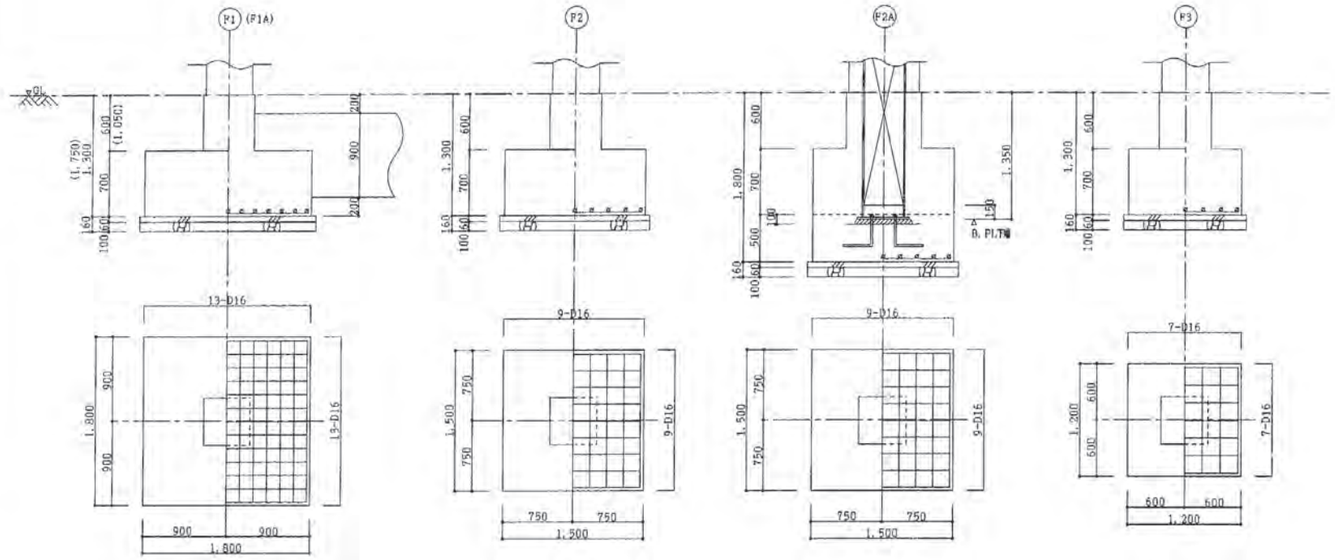
凡例
・フレクサラム受けは、亜鉛メッキ処理とする。
・H.T.Bは、FBTとする。

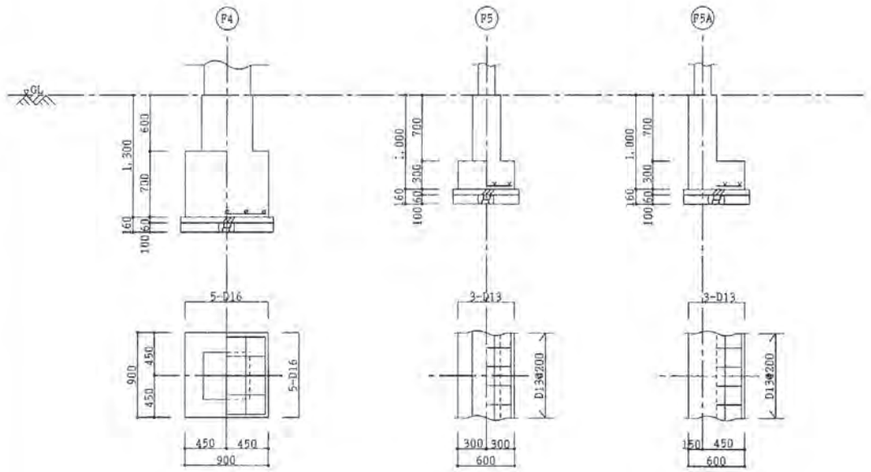
伊万里労基　建築工事					
玄関庇鉄骨、目隠しパネル受け鉄骨詳細図	S:1/20,50,100				23
九州地方建設局営繕部 平成　年　月					43

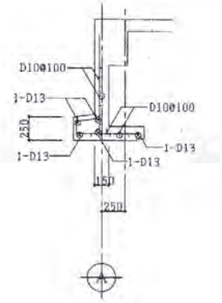
H10HA07－212

2011/03/29
12:18:00
JST

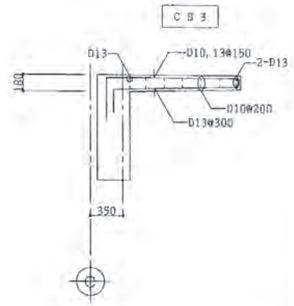
基礎リスト　S:1/30



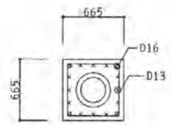




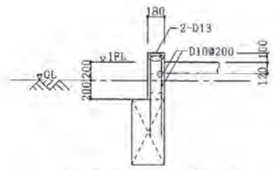
サッシ受け庇配筋図　S:1/30



CS3配筋図　S:1/30

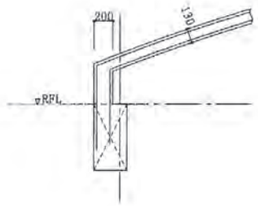


煙突配筋図　S:1/30

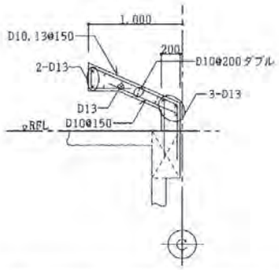


A通り1～9通り間
C通り3～9通り間

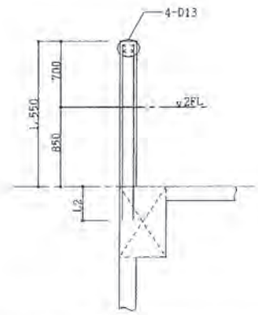
腰壁配筋図　S:1/30



R階アール屋根取り付け配筋図　S:1/30



パラペット配筋図　S:1/30



KW1Aパラペット配筋図　S:1/30

特記事項												伊万里労基　建築工事	29
												基礎リスト，雑配筋図　S:1/30	
												九州地方建設局営繕部　平成　年　月	43

H10HA07－213